

レジリエンス
原発災害からの生活復興とはなにか

—— 2015 年調査の自由回答欄にみる

福島県中通りの親子の生活と健康 ——

成 元 哲
牛 島 佳 代
松 谷 満

レジリエンス 原発災害からの生活復興とはなにか

—— 2015 年調査の自由回答欄にみる

福島県中通りの親子の生活と健康¹——

成 元 哲
牛 島 佳 代
松 谷 満

1 問題の所在

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災及びそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下「福島原発事故」）が、福島県中通り 9 市町村の 2008 年度出生児及びその母親（または保護者、以下「母親」）の生活と健康にどのような影響を及ぼしているのか。本稿は、2015 年 1 月に実施した「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」の自由回答欄の声を分類し、記録する。

福島県中通り 9 市町村は強制避難区域に隣接し、放射能の健康影響についての考え方と放射能リスクへの対処の仕方が多様である。したがって、放射能不安とリスク対処行動をめぐる葛藤や分断が発生しやすい場所でもある。原発事故から 4 年近く経過した 2015 年 1 月の時点で、子どもの外遊びや食生活を気にする母親がいる一方、事故前の生活にほぼ戻ったと回答する母親もいる。こうした多様な声を通じて、原発災害からの生活復興^{レジリエンス}とは何かを問うことが本稿の目的である。

われわれ「福島子ども健康プロジェクト」は、福島県中通り 9 市町村に住所のある 2008 年度出生児（2012 年 10 月から 12 月の時点で、2008 年度

出生児の全員、6191名)及びその母親を対象として2013年1月、2014年1月、2015年1月、2016年1月、2017年1月に、それぞれ「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」(以下「本調査」)を実施している。この調査は、同一世帯における同一の子ども及びその母親を追跡調査し、親子の生活と心身の健康に対する福島原発事故の影響を明らかにすることによって、必要な支援策につなげることを目的としている。

2015年1月の第3回調査においては、「東日本大震災・福島原発事故から、まもなく4年になります。今の心境を率直にお書きください」という問いかけに、回答総数1208名のうち746名の方が自由記述を記入している。本稿は、2013年調査²と2014年調査³の自由回答と比べて、2015年調査の自由回答欄に書き込まれた母親の声にどのような変化が生じているのかに焦点を当てる。これにより、原発災害から各人各様の生活復興が経験^{レジリエンス}されていることを明らかにしたい。

2015年調査の自由回答欄には多種多様な意見が寄せられているが、声の分類は2013年・2014年調査と共通の枠組みを利用している。そこで、本稿でも2013年調査と同様、母親の意見を①生活拠点、②(食)生活、③家計、④子育て、⑤人間関係、⑥情報、⑦賠償・補償、⑧健康の8つのカテゴリーに分類した。次の2~9は、これらの8つの分類項目ごとの意見及びその特徴を記述し、最後の10は、全体を踏まえた考察を行う。

本稿で取り上げる自由回答は、2015年の上半期の時点での意見であり、その後、こうした意見や状況が変化している可能性がある。なお、本稿での自由回答の掲載方針について示しておきたい。第一に、上記の分類項目に該当する意見を網羅的に掲載するようにした。ただし、個人が特定できる情報は掲載を見送った。具体的には市町村名、大字名の単位では個人が特定しにくいので掲載するが、それより小さい単位は掲載を見送った。その場合は、同じ趣旨の意見で個人が特定しにくい意見を掲載した。第二に、自由回答に書き込まれた意見は手書きであり、誤字・脱字も多いが、最低限の修正にとどめた。

2 生活拠点

(1) 避難関係

生活拠点のうち、避難に関する意見は①避難継続中、②避難したが戻ってきた、③避難したいができない、④避難しないの4つに分けられる。

①避難継続中

避難を継続している家庭の中には、安心して過ごせているので避難してよかったという声が聞かれる一方、二重生活による経済的負担や借り上げ住宅の継続に対する不安の声もあった。また、離れて暮らす家族の心配と、依然として避難してよかったのかと自問する声も聞かれた。

避難してよかった

- ・「親や夫の理解を得て、思い切って新潟に引っ越してきて本当によかったと思っています。お盆やお正月には郡山の実家に帰りますが、街はきれいで何事もなかったかのような風景です。でも甲状線の検査などの知らせが届くと、ドキドキします。様々な検査が新潟でも受けられるので、とてもらくになりました。ただ息子が健康でやりたいことを目一杯できる、それだけ感謝です。
- ・千葉に引っ越ししたので、福島にいるより安心して過ごせているのが本音です。常に線量を意識して生活しているのは疲れるので、今は引っ越しして良かったと思っています。でも、福島は大好きだし、自然も大好き、地元には両親も友人もたくさんいるし、将来的には福島に戻りたいと思っています。

継続できるか不安

- ・現在借上げ住宅に住ませていただいているが、今後も継続できるのか不安です。

経済的に苦しい

- ・実家に避難してから4年が経とうとしています。信じられないくらいあっという間でした。同居では色々と問題もありましたが、子供にとっ

ては、家族も多くて、色んな人の出入りのある実家に住んだことは良かったのではないかと思います。震災のことでは、二重生活で経済的負担も多く、辛いこと悲しいこともありました。悪いことだけではなかったのかな・・・と。

今後のことが心配

- ・自主避難先の茨城にて事務補佐の仕事をはじめました。3人の娘が成長していく中で、家計も大変ですが、地元の自営の仕事に従事するのなかなか難しく、どう動くべきか悩んでいます。娘の進学が茨城になったので、あと3年はこちらにいるようになると思いますが、一人頑張っている主人のことは気がかりです。自分の立ち位置を自分で決めていけないジレンマにぶつかる度、考えても仕方ないのですが、原発事故さえなければ・・・とふり返ってしまう自分もいます。ひなん生活が続く中、心身共に弱っていく方々も目に耳にすることも多くなり、子供たちだけは子供らしく育てて欲しいと考える毎日です。

移住への迷い

- ・福島を離れて移住してしまったが、これが正しかったのか、未だに心が揺れ動いています。

②避難したが戻ってきた

震災から4年が経ち避難先から福島に戻ってきた者もいる。福島に戻ってきた者のなかには、戻った先の人間関係に不安を感じたり、放射線への不安を感じたりする者もいた。

避難した先から福島へ戻り不安

- ・山形での母子避難生活3年目です。次男が小学校入学にあたり、4月に福島に戻る予定です。長男は転校を覚悟していたのですが、やはり不安は大きいようです。家族一緒に生活できることは喜ばしく、子供達の精神面でも良いことだと思うのですが、避難をして戻ってきたということが、周りの人達にどういう風に思われるのか心配です。

- ・長男小学校入学を期に、山形での生活を終え福島に戻ることになりました。放射線への不安は一時期より減ったもののやはり福島での生活には不安が残ります。食べ物や水、外遊びの制限など、意識していきたいと思います。避難生活を続けられる人をうらやましいと思いつつも、家族ばらばらの生活にも限界を感じ、戻る決断をしました。除染がすすみ、線量が下がっていくこと、
- ・震災、原発事故で、2年間山形に避難して一昨年の12月に、以前居住していた所とは別の隣町に、持ち家を購入して引っ越しましたが長女が思春期の初期に転校したため学校に未だになじめず、もう少しで中学生ですが、あまり希望も持てず、以前の所に戻りたいと(山形)、未だに言います。友人関係や、地域になじめずにいます。やはり、原発事故さえなければ、こんな思いをする事がなかったのにと、心のどこかで、思ってしまう事があります。地元を離れなければ、わからなかった事、わかった事、色んな事がありました。

少しずつ不安も消えた

- ・震災後、私の実家のある秋田に、母子で2年間避難しました。その頃は、所属感がなく、この先どうなるのか・・・不安だらけでした。福島に戻ると決めた時も、近所の人から(親として失格だ!)等、散々言われ・・・どうしていいか悩んだこともありました。福島に戻り、もうすぐ2年・・・。上の子の幼稚園で出来たママ友たちとの関わりから、少しずつ、色々な不安も消えていきました。

③避難したいができない

家のローン、仕事、金銭面、子どもの障害などを理由に、避難したいができないという声も多く聞かれた。このような者のなかには、避難せずにこのまま福島で暮らしていくことへの不安や避難しないことへの後ろめたさを感じている者もいた。

避難したかったが無理だった (家のローン、仕事、子どもの障害)

- ・平成20年12月に新築で家を構え、同時に美容室も開業しました。順調に毎日の生活を送っていたさなか原発事故が起きました。当時3才の誕生日を目前にした娘もおり、すぐに遠くへ避難する事を考えましたが、住宅ローンの返済をしながら別な所での生活は、とても出来ません。仕方なく、今の場所での生活となりました。放射線量の高い中、不安の中、毎日すごしています。
- ・原発事故直後から避難したかったが、自閉症児を抱えて母子避難は不可能であったし (私の心身的な理由)、障害児の通園や療育のことを考えると避難先で新たに探してもすぐに利用できず空き待ちになってしまうので1番療育を受けたい時期に療育を受けられなくなるのも困るので母子避難はあきらめるしかなかったが、いまだに複雑な気持ち。

自主避難者からの声に戸惑い

- ・避難する事を考えた時期もありましたが現実的に無理だったので、避難せず、ここで生活をしていく決心をしました。ただ、自主避難をしている人たちが、「子供の為を思って避難している」などと言っているのを聞くたび、心が痛みます。残っている自分が、子供のことを考えていないと言われているような気がするからです。子供を思う親の気持ちは皆同じです。色々な考え方があるのは仕方ありませんが、福島でも普通の生活があるという事を忘れないでほしいです。
- ・インターネットで目にする「子供がいるのに避難しない親が信じられない」等の文言はとても傷つきます。それぞれの家庭に様々な事情があるのも分かってほしいですね。自主避難できる家庭はそれなりに金銭的なゆとりがあるのかな、とも思います。
- ・震災直後は、「ここに住み続けていいのだろうか？」と悩んだ時期がありました。県外に避難した方の話を聞いたりすると、「そっちの方が親として正解なのか？」と思ったり・・・。ただ、やみくもに家族

全員で避難するわけにもいかずとどまりました。家のローンや夫の仕事と、お金の面が大きかったと思います。今では、「どこにも行けないんだから、ここで頑張っていくしかない」と、妥協しているのだと思います。

④避難しない

生まれ育った福島で生きていこうと決断した声がある一方、ここで生きていくしかないというあきらめから避難せずに福島で生活しているという声も聞かれる。

福島で前向きに生きていく決意

- ・ 原発事故の影響は、今もこれからもゼロではないと思っているが、福島で生きて行かなくてはならないし、生きて行きたいと思っている。
- ・ でも、もう4年経つ・・・不満ばかり言っているのは心の健康、身体の健康を保てません。これからも、家族・・・一族が福島県にて生きていこうという我が家においては、変わらず、一番は家族が共に生活をする。子ども達が健やかに成長することを考えていきたいと思えます。
- ・ よほどのことがない限りずっと自分の生まれ育った土地で生活していきたいと考えています。(子供の身体に異常があればすぐ移住も考えますが・・・)
- ・ 私は福島が好きなので、これからもこの地で頑張りたいと思います。子供達も同じ思いです。

あきらめ

- ・ ここで生きていくには「忘れる」とか「気にしない」と「他人事的」な心の状態にすることが必要なのかと思います。そうしないとここにはいられません。平気な顔して1日1日何事もなくすぎたことに感謝しています。「あきらめ」になるのでしょうか？不安は変わらずあります。

- ・一言で言えば、諦めです。

⑤特徴

避難に関する意見の総数は、66件（2014年）から78件（2015年）に増加した。その内訳は①「避難している」に関する意見が16件（2014年）から26件（2015年）に増加しており、②「避難したが戻ってきた」に関する意見は9件（2014年）から7件（2015年）にわずかに減少している。また③「避難したいができない」に関する意見は37件（2014年）から23件（2015年）に減少し、④「避難しない」に関する意見は4件（2014年）から22件（2015年）と大幅に増加した。総じて、避難行動が時間の経過とともに、選択しにくくなっていることが示唆されている。

(2) 保養関係

保養に関する意見は、①保養プログラムの拡充を望む、②保養に関する情報を得たい、③保養に満足したの3つに分けられる。

①保養プログラムの拡充を望む

継続を希望

- ・洗濯物は外に干すようになったり、福島っ子の補助を使い保養に出かけたりしていますが、それももう終わると聞き、ある程度の年月が過ぎればそうやって補助もうち切れ、忘れられて行く・・・。
- ・また時間の経過とともに、保養等の募集なども減ってきました。

参加が困難（費用、日程、募集人員等）

- ・保養する場所を、安く提供してもらいたい。
- ・NPO法人等で保養やレジャー目的の企画がよく学校等からパンフレットが来ますが、参加費が高かったり、募集人数が少なかったりと申込みをあきらめています。小学校入学前の子どもと、小学生と、その保護者が一緒に貫用の心配なく参加できるものを企画してもらいた

と思います。

- ・家計の状態でどちらかといえばゆとりがあるとなりましたが、実際は5人家族が出掛けるとかかるものは大きいので余裕があるから出掛けられるのかもしれませんが・・・大変です。でも子供達にリフレッシュして(私たちも)ほしいので、頑張るしかありません。
- ・保養にでかけたいと思うが条件に合うものが少なくなかなか行くことができない。夫婦ともにフルタイムでの仕事のため長期の保養に行くことができない。

②保養に関する情報を得たい

保養の情報が入ってこないという意見があった。また経済的な理由や仕事などで条件に合う保養がないという声もみられた。

- ・保養関係のお得な情報があることもこのプロジェクトのアンケート結果で少し知りました。私のところには全くそういった情報が入ってきません。もっとそういった情報をきちんと知らせたいなと思いました。

③保養に満足した

保養を利用してリフレッシュできている、考え方が変化したという声が聞かれた。

- ・外遊びも少しずつ増えて来ました。自宅の除染も11月に終わり一安心です。近所の公園も遊具が春には、新しくなりあたたかくなったらたくさん遊べそうです。福島市内の児童公園も4月から再オープンする事が決まり、子供達を遊びに連れていくのが楽しみです。市でも、色々してくれている様で原発前の様に外でおもいきり遊ばせてあげられそうです。週末や長期の休み(冬休み)には、色々保養に出かけていますので、少々出費はまだありますが補助なども利用してリフレッシュしております。

- ・まだ除染が終わっていない公園で子供たちが普通に遊んでいて、その公園がどの市の所有なのかわからないまま、放置してあります。除染をもっともっと進めてもらわないと、子供たちを安心して遊びに出すこともできません。一方で、福島の子供たちのために、と募金してくれて、子供たちが県外でリフレッシュする機会をいただいています。感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・昨年11月に保養に参加しました。そこで出会った方々と話をするうちに、放射線についての自分の考え方、変化に自分でも驚いてしまいました。時間が経過するにつれ、「放射線に気を付けよう」という意識が薄れてきています。実際に福島で生きていくんだから気にしすぎてもかえってストレスになって体によくない、そう思い込もうとしていた気がします。

④特徴

保養に関する意見の総数は40件(2014年)から19件(2015年)に減少した。①「保養プログラムの拡充を望む」に関する意見は33件(2014年)から6件(2015年)に減少したものの、原発事故から4年が経過し、次第に減りつつある保養プログラムの継続と安い費用で参加できるプログラムの拡充を望む意見がある。②「保養に関する情報を得たい」に関する意見は、6件(2014年)から4件(2015年)に減少しているが、条件に見合う保養の情報が得られないという意見があり、①「保養プログラムの拡充を望む」と関係しているといえる。また③「保養に満足した」に関する意見は1件(2014年)から9件(2015年)に増加した。

(3) 除染関係

除染に関する意見は、①除染にある程度満足している、②実施された除染に不満がある、③除染を望む、④(実施の有無にかかわらず)除染の効果に疑問があるの4つに分けられる。

①除染にある程度満足している

自宅周辺の除染が進み、子どもを外で遊ばせることに不安を感じなくなった、生活が震災前に戻ったと感じている者もいる。

外遊びの不安がなくなった

- ・自宅周辺等は除染も終了し、普通に外で子供達が遊べる様になり放射線量は気にならなくなりました
- ・自宅の除染も終わり、庭で遊べるようになりました。
- ・公園、自宅の除染が完了し、子供達を連れて外で遊ぶことに不安を感じなくなった。

生活が戻った

- ・私が暮らす福島市は除染も進み、震災前の暮しとあまり変わらず、おだやかな日常を過しています。
- ・なれてきたせいかな→安心に思えてきた。除染が着々とすすんでいるので。(TVや雑誌の情報にて)、あまり神経をつかわなくなりました。

②実施された除染に不満がある

除染は実施されたものの、汚染土が庭先に埋められるなど除染の処理方法や作業のずさんさに不安や不満を感じる声が出ていた。また、道路の側溝や山林まですみずみまでやるべきだという声も聞かれた。さらに、除染作業が進むにつれて、県外から来た除染作業員の犯罪が目立つようになり、交通マナーの悪さや軽犯罪による治安の低下に不安を感じる声が聞かれた。

汚染土の処理の不満、除染のやりかたに不満

- ・現在、駐車している土の中に除染した土等が埋まっています。早く撤去してほしいです。車を通して体に影響するような感じですが。ダラダラしてイライラしてします。
- ・はやく県内でもいいので各自治体に置かれている除染で生じたものを保管する中間処理施設を作り、しっかり管理してほしい。

- ・除染は1度やっただけ（H23.4月）しかも雨どいと表土10cmの入れ替えた汚染土は今も自宅の庭先に埋まっているが、袋が破れてきたり劣化もありうると思う。子供がその土の上を歩いてしまっていて大丈夫なのかと不安になる。
- ・市内は少しずつ除染活動が続けられています。計画をたてたのだから、効果が半減するといっても確実に除染はすすめていただきたいと思っています。でも、除染で出た土はまだ回収されません。ですから、住んでいる地域の線量はさほどかわっていないはずです。現に、保育所の線量計はほぼ横ばいです。近くの公園、長男をよくつれていった場所の上のゲートボール場は除染で出た汚染土が今も埋められたままです。小さな公園なので除染もすすみにくく、ほとんど次男（今回の対象者）を連れて遊びたくありません。
- ・ちょうど秋の運動会の練習が始まった頃、園周辺の除染が始まり、「タイミングが悪すぎる☆」と思いました。地中に染み込んだ土を掘り返し、今更どうなんだ？と怒り？あきました。

除染の場所、道路などの除染をしてほしい

- ・地元の小学校は徒歩通学ですが、子供達がよく歩く道は、道路の端です。側溝のあたりです。でも、道路は除染しましたが、側溝はしていません。原発事故から4年もすぎるのに、子供達が毎日通る道は、安全だといえません。国の対応の遅さを、皆に知ってほしいです。
- ・もっと町のすみずみまで除染をすべき。山も林も道端も側溝も……。遅い。つい最近になって、やっと庭（地区）の除染をやったばかり。近所は現在進行形。

除染作業の質に不安

- ・やっと自宅周辺に除染の作業が始まり、寒い中でもあちこちで作業している。既に家は終わったが、作業してくれる人は良い人でも、作業内容（質）が、下請業者で差があったりして……。組織の限界もよく分かるけど……。寒空の下でやって頂いている、という思いもあ

るし、だけど作業する側のマナー的な事や、内容にギャップも感じる。このギャップとは、「感謝」している反面、作業している側の方には、こちらの心傷が伝わらない→「作業」になっているので、打合せ時に温度差を感じたり、こちらの不安が、相手からすれば苦情を言うような構図が悲しくなる。

- ・子どもたちの通う保育所、幼稚園、小学校は1~3年前にやっと除染が終わり、一般住宅、企業、病院などの除染は、約半年~1年前から始まり、現在も施行中です。我が家(マンション)の周囲も、やっと今月から始まることになりました。市役所に努める友人(担当者)の話では、「けっこう信用できる(ちゃんとした)業者だから大丈夫」と。では・・・“ちゃんとしてない”業者も出入りしているんですよ。
- ・福島市内は、除染をしていますが、まだ私も家のあたりは始まっていません。それに、いいかげんな作業だという話も聞くので、本当に除染されているのか不安です。それなら、お金をもらって自分たちで信頼できる業者に頼んだ方がいいような気がします。そう考えている人がまわりにたくさんいます。

見知らぬ除染作業員への不安

- ・ようやく私達の住む地域にも除染作業をしてもらえる日が決まりましたが、県外から来た除染作業員が連日の様に犯罪を犯していると報じるニュースに不安を覚えます。震災→原発事故→避難・・・と不安続きで疲労を感じる毎日です。
- ・除染作業も進んでいないのが現状で、時間だけが過ぎて行きます。除染作業員も問題の有の方が多いようで、物を盗まれたりするので除染の時は家を空ける事が出来なかったり、治安も悪くなったような気がします。(軽犯罪のニュースでよく除染作業員が捕まっています。)このような状況から時々不安になるのですが、全く別な場所で暮らす事も考えてはいないので・・・(仕事の関係等)このまま福島で暮らすと思います。

- ・除染はこれからの予定ですが、近頃のニュースで除染員のトラブルをよく目にします。除染はもちろんしてもらわないと困りますが、どのような人間が除染をしに、自宅を出入りすることになるのだと考える不安です。
- ・除染作業のため、全国各地から福島県に来てくれています。県外ナンバーの車の交通マナーの悪さには、困ってしまいます。“福島県のために”と言われればそれまでですが、除染作業の手抜きや、犯罪のニュースを見ると、本当に福島県のためと思っているのか疑問です。ただ、“金のため”で、金さえもらえれば、どうでもいいとしか思っていないのではないかと疑ってしまいます。申し訳ありませんが、早く穏やかなもとの福島県に戻ってほしいです。

③早期の除染を望む

除染の進行状況に地域での差がみられる。作業が遅れている地域では、不満が広がっている様子が見える。

除染の順番がまわってこない

- ・まもなく4年が経つというのに、私たちの地区は一般家庭の除染はまだ進んでいません。もともと線量がわりと低い地区ではありますが、やっと近くの地区まで進んできて、今頃除染をしても意味があるのか、するのであれば、もっと早い時期にしないと意味が無いのでは、と疑問に思っています。
- ・自宅は、まだ除染が来ておらず、当時のままです。早く、自宅除染をしてほしいです。自費で少しは庭をきれいにはしましたが、そのお金も私たちの地域には、少ししかもらえませんでしたし・・・。
- ・2011年4月ごろ、このあたりの空間線量は $2\mu\text{sv}/\text{h}$ でした。現在は $0.15\mu\text{sv}/\text{h}$ 。(どちらも市役所駐車場)想像していたよりも線量は下がりました。けれども通学路では地上1mで $0.5\sim 0.9\mu\text{sv}/\text{h}$ の所もたくさんあり、まだまだ安心できる線量ではないと思っています。除染

もまだ説明会すら開かれていません。自宅の土地の中だけ(土、雨どい)でなく、道沿の土や砂のたまっている所や、駐車場(住宅のとなり等の)の高線量の所を早くどうかしてもらいたいです。

- ・まもなく4年になるのに、自宅の除染がいつになったらやってもらえるのかわからず、ただ待っています。
- ・昨年の夏に除染の順番が来るはずでした。全くメドが立たない程遅れています。通学路の除染もまだです。
- ・自宅の除染がまだなので庭では遊ばせていません。早く除染をしてほしいです。
- ・未だに家屋の除染もされていません。子どもが安心して遊べるような環境に早くなってくれることを望みます。

④(実施の有無に関わらず)除染の効果に疑問がある

原発事故から4年が経過した時点での除染であること、また、すべての場所が除染されているわけではないことに対して、効果が期待できないという意見が聞かれた。

除染が遅すぎて、今さら効果が期待できない

- ・自宅の除染が始まります。4年たってようやくです。意味があるのでしょうか?一応、やらないよりは、やった方がいいと思い、お願いしますが、対応が遅いと思います。
- ・やっと住む地区に除染が来るようです。4年もたつと、正直どうとも思わなくなってきました。4年の雨風の後で除染と言われても、実際効果があるのかどうかわかりません。雨どいの所が!とも言われていますが、自宅は直接下水に入るように作ったので水が目に見えないのもあるかもしれません。正直よその土地から来た除染作業者に家周囲をウロウロされるほうが治安の面で心配です。
- ・今年になり、家族の除染の打ち合せが始まりましたが、「今さら?もうやらなくてもいいのでは」とさえ思ってしまう。

- ・2月に自宅の除染が決まりました。まもなく4年になりますが意味があるのでしょうか？足場を組み屋根、壁を洗い流し、庭の土を線量をはかりながら削るそうです。屋根や壁は雨、風で流れていると思います。実際、下水溝や土地の低い所の線量が高いです。除染作業員の手間や賃金を考えると無駄が多いように感じます。原発事故当時2歳だった子供が今年小学生になります。今は母親に車で保育園の送迎ですが、小学校は徒歩です。子供の足で片道30~40分かかります。今まで以上外にいる時間が長くなります。通学だけでも親の心配が増えました。
- ・原発後、いま頃になって除染しているが、当時は $3.8\mu\text{Sv/h}$ あった時やらずに、今の $0.2\mu\text{Sv/h}$ 位で除染やっていて意味あるのか？当時、自分たち家族で自腹で土壌けずった費用等の補償がされないのも疑問に思う。当時必要だったはずなのに。

すべての場所を除染するわけではないので、効果が疑問

- ・除染は意味があるのでしょうか？屋根、外壁、側溝を除染しなかったら尚更無意味だし、線量計を持ち歩くことも今となってはしません。私の家族は、子供たちと福島で生活しているのは、他に当てが無く、県外での生活が不安だからです。福島県民の風土で、土着民なのです。外（他人・他県）との係り方が下手なのです。
- ・他の地区では、除染したにもかかわらず、再び、放射線量が、高くなった所もあると聞いています。我が家も、後は、山で、山全体を除染したわけではないので、そのうち、また高くなってくるのではないかと・・・と家族と話しています。

⑤特徴

①「除染にある程度満足している」に関する意見は9件（2014年）から28件（2015年）に増加した。ただ、②「実施された除染に不満がある」に関する意見も16件（2014年）から60件（2015年）に大幅に増加した。

一方、③「除染を望む」に関する意見は74件(2014年)から32件(2015年)に減少し、④「(実施の有無に関わらず)除染の効果に疑問がある」に関する意見は9件(2014年)から33件(2015年)に増加した。全体的に除染や除染の効果に関する評価は不満や疑問が目立つようになってきた。

3 食生活

食に関する意見は、①「地元産の食材や水道水はできるだけ使わない」、②「地元産の食材や水道水を使わざるを得ない/使っている」、③「学校(保育園)給食に対する疑問」の3つに分けられる。

①地元産の食材や水道水はできるだけ使わない

食に関しては、2014年調査より意見数が減ったものの、放射能の影響を心配して食材の産地を選んで購入しているという意見がみられた。また、他県から食材を取り寄せることで食費がかさみ、家計を圧迫しているようだ。

食材の生産地を選んでいる

- ・食べ物はまだ秋田より北、愛知より西の物を選んでいきます。ほうれん草など葉物はなかなか手に入らず、ほしいなあと思いますが、茨城、栃木産などは絶対に買いません。学校の給食の牛乳も、来年度からどうしようか迷っています。今となっては、周りにこんな相談をできる人もいなく、主人も食べ物に関してはあまり気にしていないので自分の判断だけになりますが、後々、「あの時～させなければ・・・」と思うのがイヤなので、放射能関係は、自分が納得いく限り、やれるだけ気をつけていこうと思っています。
- ・不安はまだあり、飲料水、米は未だに北海道のものを購入、野菜や肉もなるべく九州、四国、北海道、青森のものを選ぶようにしています。きっと大丈夫と思いながらも、やはり心配は残ります。
- ・未だに食材・水は心配で県外の物を購入しております。震災直後より

過度な心配は感じなくなってきても、食材・水が気になるという事はまだ心配な気持ちは抜けないのだと思います。

- ・米の全袋検査も、今年からおこなわないとの事でまた他県のお米を高いけれど買わないといけなかな、と気が重い事ばかりです。

食費の負担が大きい

- ・せめて、内部被ばくだけでもと食も気をつけていますが、やはり、とりよせなどでお金もかかります。
- ・また、野菜などでも、未だに信用しておらず、別地域より取り寄せているため食費も多くなってしまいます。

地元産食材に抵抗を感じる

- ・福島産の食べ物を食べることにはまだ抵抗がある。
- ・畑は市では除染はまだしないようなので、福島産の食べ物は正直安心できません。というより信用していないので、個人で作っている方から野菜を頂くことがあります、全て処分しています。早く安心して地元のもが食べられる日がくることを待っています。

②地元産食材や水道水を使わざるを得ない／使っている

地元産を使うようになったという声が2014年調査より増えている。理由として、検査していることへの安心が増し、抵抗感が減ったと考えられる。また地元産を購入することで、地元を盛り上げたいという意見や、経済的な理由で地元産を購入せざるを得ないという意見もあった。

検査しているので安心している

- ・地元の食べ物は全て検査されているので、安心できるようになりました。
- ・食べ物に関しての私の考えは、少しずつ変わってきました。近くの学習センターで時々食品の放射線量を測る機会を得てから、測定すればおじいちゃんの作った農作物も口にするようになりました。かえって測定してある農作物の方が安心なのでは・・・と思うようになりました。

た。地元のお米も買うようになりました。

- ・食に関しては、検査が徹底されているので、他県よりも安全だと感じている。
- ・地元産の野菜は食べています。(お店に並んでいるものに限りますが)お店に出ているのは検査されているからという認識です。

地元を盛り上げたい

- ・地元の生産物は放射線検査など、きちんと行われているので福島を盛り上げる為に進んで買わせて頂いています。
- ・生活の中では、できるだけ県内産のものを食べるようにしています。直売所で安く手に入るし、微力でも応援したいので。

抵抗を感じなくなった

- ・福島県産の野菜やお米を食べたりする事にも以前より抵抗を感じなくなりました。
- ・以前は、福島県産の物は、さけていましたが、日が経つにつれ、検査しているから、大丈夫だろうと思うようになりました。

金銭的な理由

- ・食材も気をつけたいが、同居の母にたのめず・・・(金銭的にムリ・・・)あきらめていることがくやしい。

③給食に対する疑問

地元産食材を給食に導入する動きに不安や違和感を訴える声があった。

- ・福島県の食材が心配。(子供の給食など・・・)
- ・学校の給食も、震災直後は、県外産の野菜を使っていましたが今や、地産地消です。信じられません。
- ・今年から小学校で給食をいただくことになり、説明会で話を聞きましたが、少しずつ県産の食品を導入するとか。福島県で、「福島の生産物は安全」と必死にPRしているのに、幼稚園、小学校の対応がそのような状況であるということに違和感を覚えます。

④特徴

「地元産食材や水道水はできるだけ使わない」という意見は32件(2014年)から20件(2015年)に減少する一方、「地元産食材や水道水を使わざるを得ない／使っている」は2件(2014年)から21件(2015年)に増加した。「給食に対する疑問」は11件から3件(2015年)に減少した。

4 家計

(1) 収入

事故前に比べて、事故後の収入の減少に不安を感じている者がみられた。特に農業を営む者にとっては、事故後の米の価格下落が大きく生活に影響していることがうかがえた。

収入の減少

- ・私の仕事は保育士ですが、南相馬市と現在の郡山市とでは、待遇も大きく違っていますが、収入は、減でも仕事量は増で日々疑問と震災前との生活の差に悩みをかかえています。現実には生活費。震災前と現在の収入の差は私で10万円程度で現在の年齢でこのギャップをうめていくための手だてを考えるため四苦八苦しています。

農業：米の価格の下落

- ・収入もさほど変わらないのに出費が多い。農業をしても、米が安いので得をするどころか、赤字。体力とお金だけがへっています。この先、どうすれば良いのか。家も直したいけど進まず。不安です。1日1日を大切に生きるのが生一杯です！！
- ・農家なので米の値段がすごく安くて困ります。米もどんどん売れずに豊作でも値段が安くては全然利益が出ず、その他の経費ばかりがふくらみます。

(2) 支出

支出に関しては、①「避難・二重生活の費用」、②「放射能対策費用」、

③「外遊びの代わり」、④「他県産の食材・水の購入費用」、⑤「租税、公共料金」のほか、⑥「住宅費用」の6つに分けられる。

①避難・二重生活の費用

これについては、前記1(1)①「避難継続中」に挙げた意見のほか、次のような意見があった。

- ・経済的に苦しいため、食費を削るしかないなどギリギリの生活をしています。(2重生活なので負担が倍になっている)

②放射能対策費用

放射能対策費用としては、甲状腺検査の受ける際の交通費を出してほしいという声がみられた。

- ・甲状腺検査などに行く際の交通費を出して欲しいです。場所によっては少し遠い所を指定されることがあるので。消費税も up したので家計に負担がかかります。

③福島での外遊び制限の代償として発生する費用(保養、体験等)

福島での外遊びを制限する代わりに保養や体験にでかけることで、出費が増加したという意見があった。

- ・親として厳しい家計の中で、将来に役立つ体験や、本人の意思にそって、色々体験させたり、体をじょうぶにしていきたいとか、日々、葛藤しています。
- ・お金の事もそうですが、少し遠くへ行ったり水を買ったりやはり少しずつはお金の面でも負担が増えて減る事はまだありません。
- ・保養に出すにも、お金がかかります。
- ・休みの日はなるべく放射能から離れたくて、遠くに出かけますが、これも相当の出費。お金がないと何も出来ない。余計な出費が多すぎます。

④他県産の食材・水の購入費用

前記2 (1) 「食」のほか、他県産の食材や水の購入費用に関して、次のような意見があった。

- ・未だに飲み水だけは購入しており原発事故前よりも出費が増えております。せめて水代だけでも負担して頂きたい！！というのが本音です。
- ・今でも、市販の水を利用し、地元産の食材を購入していない為、経済的に余裕がありません。
- ・個々に補償はしているのですが、原発後、水を買ったり、野菜など他県のを買うので、経済的にすごくきびしいです。なかなか、リフレッシュに行けません。

⑤租税、公共料金

事故後の電気料金の引き上げ、所得税・消費税、食品値上げ、ガソリン価格の高騰が家計に大きな負担になっているという意見があった。

- ・除染、農作物に対する補償など、とても補償といえるものではない。
- ・農作物の価格補償金は課税対照となり補償金もその年分に支払われず申告が難しく、農業自体の収入は変わらないのに所得税も以前に比べ高くなった。
- ・電気代の容赦ない値上げが、大きな負担になっています。国が国民のことを考えているとは、思えません。あきらめるのを待っているように感じます。
- ・電気料金の引き上げをはじめ、消費全アップ、食品値上げ、ガソリンの価格がいまだに¥145/L(平均) など、本当に生活しにくい世の中だと感じます。特に、冬場の電気料金は、家計を圧迫させています。一万円以上電気代が高くなり、12月～3月の電気料金は月3万円～4万円弱です。月々の電気代にも悩まされています。

⑥住宅費用

事故後、家の補修で費用がかかり経済的に苦しくなったという意見や土地の高騰により家を建てられないという不満があった。

- ・震災後、家の補修などで働かざるをえなくなりなり経済的に苦しくなるとともに子供たちとの時間も少なくなり、自分の負担、子どもたちへの負担が大きくなっているように感じています。
- ・子どもも、大きくなってきたので、家を建てたいと思っているが、土地はない、土地代が高いので、建てたくても、建てられない状況です。
(原発周辺の被災者が買い占めているため。)

(3) 家計の特徴

家計に関する意見の総数は、53件(2014年)から45件(2015年)と減少した。詳細としては、(1)「収入」に関する意見が4件(2014年)から5件(2015年)とわずかに増加し、(2)「支出」に関する7つの項目で大きく件数に変化があったのは「③福島での外遊び制限の代償として発生する費用(保養、体験等)」が4件(2014年)から13件(2015年)に増加した点と「④他県産の食材・水の購入費用」が30件(2014年)から13件(2015年)に減少した点である。

5 子育て

(1) 遊び

子どもの遊びに関しては、①「外遊びをさせている」、②「外遊びを制限している」、③「室内遊び場」の3つに分かれる。

①外遊びをさせている

子どもの外遊びについては全体的に消極的ではあるものの、子どもに外遊びをさせるという意見が前回より増加している。その理由に放射能に對して慣れが生じてきたこともあげられる。

- ・幼稚園でも、普通に外遊びをするし、親も、特に神経質になることはなくなりました。
- ・子どもと公園や庭で遊ぶことができるようになり、ストレスが減りました。久しぶりにこの調査に回答して感じたのですが、子どもの行動で気になることがいくつかあるな、以前は問題なかったことで気になることが出てきたなと思いました。それが震災・原発事故と関連があるかどうかは分かりませんが、だからこそ、このような継続した調査が必要なのだと思いました。
- ・以前よりは線量も下がってきていて、子供が外で遊ぶ時、放射線の事以前よりは気にしなくなってきています。慣れもあるかも知れませんが。

②外遊びを制限している

子どもの外遊びについて消極的な意見は、まだ多く見られる。その理由に、線量が依然として高く安心して遊ばせる場所がないことや健康への悪影響が心配される点があげられる。外遊びしないことによる子どもへの体力面、精神面、そして生活面での影響を心配する声も多い。外遊びの代わりとしてスイミングやスポーツの習い事をさせているという意見もあるが、やはり費用の負担も大きい。

線量が依然高い／遊ぶ場所がない等の理由

- ・除染は終わったけどまだ外の線量は0.2~0.3 μ SV/hはあり、子ども達は土や葉っぱもさわらせていない。公園にも行ってない。30分上限で外遊びしている。
- ・新しい砂をたくさん入れてもらい、庭で砂あそびもできるようになりました。町内の道路や通学路などはまだ除染が終わってなくて、原発事故以来手をつけていない状態なので、どこでも自由に遊べる環境ではまだないと感じます。今は、甲状腺検査などをきちんと受けて経過を見守っていくことしかできないと思っています。

- ・近くの公園はほとんど中間貯蔵施設ができるまで放射線が高い土を置く場所となっています。子供が遊ぶ所がありません！！一体親としてどこまでしていいのか責任が持てません！子供達の未来と希望を光輝くものをお願いします。室内訪設を作ってもつれていくのは親ですよ！私はシングルです。ムリですよ。

外遊びできない影響（体力面）が心配

- ・外で遊ばなきゃいけない時期にあまり遊べなかったので、運動能力が心配です。でも今はなるべく遊べる時は運動能力の方が心配なので遊ばせたいと思っています。
- ・私自身、どちらかといえば放射線に関して楽観的に考えており、周囲も比較的同じような考えの方も多く、実際、幼稚園では外遊びも毎日あり、夏は裸足で遊ぶようになりました。それはとても嬉しく思います。ただ、近くの公園に遊びに行ってもほとんど子どもの姿がなく、幼稚園以外ではたまにしか外遊びをしていません。子どもの体力面で他の県に比べどのくらい劣っているのか気になります。同じ地域にいても頻繁にスポーツの習い事に通っている子どもは体力があるように見えるので、習い事を増やした方がよいのか、などたまに悩んでしまいます。

外遊びできない影響（生活面）が心配

- ・外遊びの時間が全く無い子供の生活スタイルに不安を感じます。歩きや、自転車で行ける距離でも、車で送ってほしいと言うクセがついてしまいました。外で遊んだらと言っても、「イヤダ」と答えるので、体力や、身体の成長に悪影響の生活をしていると考えてしまいます。心配したり、イライラしたり、このところ母親として気持ちが不安定です。
- ・近くに公園や子供たちが集まる施設もないので、家の中でゲームすることが多くなってしまいます。

外遊びできない影響（精神面）が心配

- ・事故間もなくの頃、子供達が外で遊びたいのにさせてあげられなかった。放射線が子供の体にどんな影響があるのか、将来に影響があるのか、わからないからこそ、不安や心配になり外遊びを禁止しました。子どもを大切に思い、守りたいからこそその行動でした。しかし、子供の自由をうばい、我慢をさせ、小さな子供の心にどんなキズを作ってしまったのか・・・今でも考える事があります。申し訳ないと・・・とった行動が良かったのか、悪かったのかそれもわかりません。これからも考え、悩む事は続くと思います。子供だけではなく、親の心にもキズを残しているのです。
- ・子供達が自由に外で遊べる様な、環境になると、とてもうれしい。室内ですごす時間が、とても多く、心の成長や、身体の成長に、とても心配しています。大人の私もストレスがあるので、子供のストレスが、心配です。

肥満

- ・原発事故後ずっと、子供を外で遊ばせておらず、家の中ですごしているのので、軽肥満気味になり、色々と考えさせられているこの頃です。
- ・兄（5年生）の時と比べて、外で遊ぶ機会が少なくちょっと太りぎみになってきている。

安全な遊び場確保のための苦勞

- ・やはり外で遊ばせるのには抵抗があり、子供の体力のことを考えると、スイミングやスポーツの習い事をさせたくて・・・でも出費がきついです。
- ・子供を遊ばせる場所も増えてはきていますが、ほとんどが市内にあるので車で行かなくてはいけないのでガソリン代を考えるとなかなか行くことができないのもっと近くに遊べる場所が増えたらな・・・と思います。
- ・室内の遊びではなく、屋外で遊べる場所を作ってほしい。

③室内遊び場

室内遊び場に対する要望や不満があった一方、室内遊び場ができて良かったという意見もある。

要望

- ・子供の室内遊び場もいつのまにか何か所か屋外遊びに変更になっていまだに着工もしていない。市の予算で業者の入札等いろいろとあるとは思いますが、早く進めて欲しいと思う。
- ・室内で遊べる場所をもっと多く作ってほしい。
- ・乳幼児から小中学生まで幅広い子供が遊べる場所が欲しい。現在ある施設は人数制限がある為、うちは利用できない。人数制限のない広々とした所を作って欲しい。

不満

- ・子供が遊ぶ施設があちこちらにできているが、人が多くて、カゼをもらってきてしまったりするので、なかなか行けずにいる。

満足

- ・念願の屋内施設ができることにすごく感謝している。仕事で休みがなく子供を線量低い所へつれていく回数がかくだんに減ったので、幼稚園や小学校・地域でもっとそういう機会をつくってほしい
- ・近隣の市町村にも室内運動場が整備されて子どもたちを天気に関係なく遊ばせられるので助かる。保育所でも震災関連の子育て事業が継続されていていろいろな経験ができています。

④特徴

①「外遊びをさせている」に関する意見は15件(2014年)から28件(2015年)に増加。②「外遊びを制限して(されて)いる」に関する意見は、39件(2014年)から51件(2015年)に増加。③「室内遊び場」に関する意見は43件(2014年)から9件(2015年)に減少した。

(2) 放射能対応

子どもの放射能対応に関する意見は、①子どもの検査、②積算計（ガラスバッジ）、③その他の3つに分けられる。

①子どもの検査

子どもの検査については、検査の継続を希望する意見や検査結果について基準がはっきりしていないため解釈に悩むといった意見があった。原発事故との関連性がないという説明に不信感を持つ意見もみられた。

検査が面倒・負担

- ・ボディホールカウンターや甲状腺の検査がめんどう。安心したいけど、このようなことが日常化してうとましく思う。自宅で、トマト等栽培する時、大丈夫か不安になる。自宅まわりに数値の高い場所があったらどうしよう・・・と不安になる。
- ・検査行くのも、予約や仕事の都合でめんどうだと感じる事がありました。
- ・甲状腺検査やWBCは仕事を休んで行かなくてはならないし（自分と、子どもと別の日）、積算量計の携帯も手間だし、その、生活記録票の記載も、子どもの人数分。とてもストレスになります。「やらない」という選択もできますが、それはそれで不安です。でも、生活記録票の記載は、もう無理！！次年度は、やめようと思っています。

検査の継続の要望

- ・定期的な検査を継続してほしい。
- ・私自身は、福島で住み続けていく以上、小さな子ども達の為にやれることは全てやりたいと思っています。甲状腺検査やホールボディカウンター、個人線量計など定期的に県や市から案内がきますので、今後子ども達の為に必要な検査など長期的に行って行って欲しいと思っています。

検査の結果や説明に不満

- ・甲状腺の結果についても、我が家の次女が、二回目の結果で、のう胞を認められたのですが、(A2) 原発事故とは関係がないみたいな事が書いてありました。甲状腺ガンが、認められても、原発事故とは関係ないとされてしまいます。では、なぜ、事故とは関係ないのに、検査する必要があるの??と、友人も話していました。福島以外の別の県で、同じく事故がおきても同じなんだろうね、もしかしたら、福島よりひどい対応かもね、なんて話しもします。4年は、あっという間です。2才だった長男も、小学生になります。このまま、何も変わらず、何年も過ぎていくんだろうな・・・。
- ・医大の判定は「A1」でしたが、他の医療機関では、のう胞がたくさんあるといわれました。たった1-2分の検査結果で「大丈夫」といわれてもますます不信感が高まります。
- ・子供達の甲状腺等の検査をして、その結果を見ても、比較するものがないので、その結果がどうなのかが分からないので、それに対し、どうすれば良いのか悩む所はあります。他の県でもそういった検査をして、どうなのかというのが分かれば対処の仕方も分かってくるのではないかなと思います。
- ・2回目の甲状腺検査で、のう胞が見つかりました。これは、「普通の状態の子供でもよくあることだ」という説明で納得しておりますが、実際のところ、他県との比較で、どうなのか?というのが分かりませんし、福島に限っては、子供の健康という点では積極的に検査をしているため、このようにクローズアップされているのだと理解しております。いずれにしても、本県においては、子供に対する医療体制が整備されてきていますし、そうでなければいけないと信じております。そのように信じなければ福島で子育てなんてできません。たまたま縁があって、活発に屋外で活動することの多い幼稚園に入園させましたが、他の幼稚園の話などを聞くと、園庭で遊び終わった後は、必ず玄

関で洋服を着がえさせるそうです。幼稚園でそうだと、母親は、やはりそこまで気にしなければいけないものという思いをぬぐい切れず、結果としてなかなか普段の生活に戻るのには難しい状況をつくり出している感じもします。

②積算計（ガラスバッジ）

積算計に対する不満の声もある。

- ・積算系を持たせるのは意味がない→放射線量が高い所に行くと言が鳴る様なものにしないと子供には意味がない。

③特徴

「①子どもの検査」に関する意見は、18件（2014年）から28件（2015年）に増加している。「②積算計（ガラスバッジ）」は、5件（2015年）から3件に減少している。

(3) 出産

出産に関する意見は、①妊娠、②流産の2つに分けられる。

①妊娠

福島で妊娠または出産することで、子どもに影響がないか不安を感じ、妊娠に慎重になる意見がある。

- ・福島にいる間妊娠していたので、事故後すぐではなくとも、他地域よりも放射線値が高いので、身体に影響がないのか、何らかの検査等を実施して欲しい。
- ・約4年たち、娘の同級生にも弟や妹が産まれました。私は福島で子育てを続けていくことそのものがとても負担に感じているので、今いる子のことだけでいっぱいなのですが、事故後にここで妊娠・出産した知人たちのことを思うと、強いな・・・と思うと同時に不安はないの

か、彼女たちはもう事故前と同じ日常を生活しているのか？対応できない自分がおかしいのか？と色々なことがぐちゃぐちゃになってよくわからなくなります。

- ・昨年末、子どもが産まれました。周囲でも多い様な気がします。震災後、放射線の不安からなかなか進めなかった人も多かったみたいです(子どもを増やすことについて)それが増えていることは、それらの心配の中でも生活から落ちついてきている印なのかもしれませんね。
- ・原発事故による放射能の影響で事故後数年、2人目の子どもを産んでも大丈夫か、不安と心配で2人目がつくれなかった。もっと早く子作りしたかったのに大丈夫か、不安と心配でできなかった。

②流産

- ・昨年中は、2度の流産を経験し、震災直後からずっと福島にいる主人に何か問題があるのではないかと・・・など深く考え悩むこともありました。4月から福島に戻り家族での生活がスタートできることはとても嬉しいのですが、ここで暮らして将来この子たちは無事に赤ちゃんが産めるのか・・・などの不安は消えることはありません。

③特徴

「① 妊娠」に関する意見は6件(2014年)から1件(2015年)に減少。「② 流産」に関する意見は、2件(2014年)から3件(2015年)に増加している。

(4) その他、子育てに関する不安

福島で子育てをすることに様々な不安を感じながら、日々過ごしているという意見がある。

- ・気持ちが疲れてしまったり、頑張りたくなくなったり、でも子供たちの将来を考えると頑張ってる姿を見せなきゃと自分をふるいたたせ

て、気をはっているような毎日です。気持ちがやすらげる環境がほしいです。

- ・このまま福島に住み続けていっても子供達は大丈夫なのか？福島原発を子供にどう伝えていけばいいのかわからない。
- ・一番は子供のため、私は今何をすべきなのかをまだまださがしている状況です。
- ・何につけても制限をしなくてはいけない。子どもの大切な時期に、今までのような経験をさせてあげられないことが、非常に残念に思う。
- ・今後の不安はある。でも、子供達には普通の生活をさせたい気持ちが強いいためなるべく制限しないようにする生活が続いています。

6 人間関係

(1) 夫婦・親族との認識のずれ

両親や親族との間に放射能に対して考え方に相違があるため、意見の対立や関係悪化につながっている。特に、地元産の食物に対する考え方に相違が見られ、ストレスになることが多い。

両親・義父母

- ・近所に子供がいない為、食べ物や生活などの相談もできないので困る。私はまだ自分の家で作った野菜、米などは食べたくないと考えているが、近所はおとしよりばかりで姑が自分で作った野菜や米を食べたがっているので、いつもケンカになる。(※近所はみんな自家野菜を食べている) 姑とはもともとあまりうまくはいいなかったが、原発事故から、ますます価値観の違いなどから口ゲンカが多くなった。家庭内の空気も悪く、その事で子供たちに影響がないか心配。4年という月日をどうとらえていいのかも分からない。食べ物・生活もすべて元通りにして良いのかどうなのかも分からなくて、考えるだけでもストレスを感じる。
- ・私の両親は放射能に対してはあまり深く考えていないので、子供と外

であそんだり、自宅でとれた野菜や果物を食べさせたりしていました。私は、孫と一緒にあそんでくれるのもありがたいし、自分が作った作物を食べてもらいたい気持ちも良く分かるので言いくかっただですが、何度も「外には出さないで」「地元産のものは食べさせないで」「何のために避難しているか分からなくなる」と言ったり、自分でおかずを作って持っていったり、室内で遊べるおもちゃを買ったりしていました。私も、子供をむかえに行くときは、子供が「イヤだ、アパートに帰りたくない」と泣くので、自分の行動がまちがっているのか？とても悪い事をしている気分で一緒に泣いて帰る事がほとんどでした。実家からアパートまで一度も泣きやまなかった事も何度もありました。(約2時間半ぐらいです)。やさしく声をかけて「放射能の影響で将来〇〇くんが病気になるのが一番心配だから、今はガマンして少しでも線量の低い所に住んでるんだよ」と言いかせながら帰る事もあれば、私も不安定になって泣いている子供を強く叱ってしまう事もありました。今は落ち着いてきて、実家に帰っても泣いたりしなくなったので良かったのですが、逆に地元の人たちとの溝が深まってきているように感じます。福島の人々は普通の生活を送っているからです。私もときどき、何でこんなに不自由な暮らしをしないとイケないだろうと、だれかを責めたくってしまう事があります。

- ・私は、食べ物を他県産の物を使用しているんですけど、じいちゃんばあちゃん達との認識のずれがあり福島県産の物は食べないのか、お金がかかるから福島産の物でもいいんじゃないのと言われてます。安心安全と言われてはいるものの、はたして子供達には大人になってからの体への影響はないのかと考えさせられます。
- ・以前からくらべると原発事故から、何年もたったんだから、とか、検査して大丈夫とされているからと言う人がさらに増え、今では県産物を避けていることをいうと神経質だと思われてしまうため、それらに関する話しはできない状況です。県産物や関東の食材は子供に食べさ

せないと何度も言っているにもかかわらず、同居している義母はそれらの食材を子供に食べさせていたり、私達にもってくるため、考え方の違いからストレスで仕方ありません。事故から4年もたつと、考え方が両極端となった印象で、おもいを吐き出したり、想談できる人が少なくなった気がします。

親せき

- ・親せきが、作った野菜などを渡されると、夫の親せきをむげにも出来ず、いままでだったら喜んでもらっていた野菜がストレスに感じます。

(2) 近所・知人

事故から4年が経過し、近所や知人との間で放射能に対する考え方に違いがあることを認識し始め、お互いに話題にしなくなってきている。

- ・会社でも話題にもならない。放射能の話をする人は、神経質な人というイメージが固定されてきていて誰もが話さない。タブー？みたいになっている。
- ・保養先で出会ったママ達とは、原発事故後の生活の価値観は合いますが、保育園や昔からの友人とは神経質な人に思われるので、嫌だなど心では思う事があっても言えません。先日も子供がどんぐりや石を拾って保育園から帰って来たので嫌でしたが、喜んでる姿を見ると言えず、普通に外で園庭で遊ぶと震災前のように遊ばせてるのが少し不安ですが、他の保護者の方がほとんど気にしてないので言えないので、わずか1時間未満の間だから目をつぶろうと思っています。
- ・周りの方でこのことについて気にかけている方がいないように感じ、気にして気をつけている方がおかしいという感じがとてもする。周りでこの話をする方もなく、以前の生活とかわらなくなっている気がする。
- ・周りの人達とは放射能について話すことはなく、実際みなさんがどう

考えているのか分からず、そして聞けません。

- ・現在住んでいる場所は、原発事故の影響を多少受けているようですが、周囲の人達の意識が薄く、人口も少ないので、自分だけ孤立しているような感じがあります。地震で、主人の実家(現在の居住)が半壊になり家を建て現在に至りますが、どうしても周りになじめず、気分がすぐれません。
- ・家族の間でも原発の考え方、今の環境に対しての考え方に、温度差があり、話をしても一方通行です。まわりの方も、「もう気にしてない」などと言われると、もう話もできないので、私の中では、放射能は禁句となっています。

(3) 外部からの目が心配

「福島」出身者に対する差別や偏見を不安に思う意見が増加している。特に、学校でのいじめや結婚・就職などへの偏見を不安に思う声が多い。

いじめ

- ・子供達が将来進学や仕事で県外に出た時、福島県出身であるということだけで、差別やいじめ等にあったら悲しいし、つらいなと思ったり、考えたりすることがよくあります。又、結婚や出産、子育て等、子供達が将来幸せに生活できる環境がどのくらい整えられているのか心配です。
- ・原発事故で避難している方達のマナーの悪さが、様々な形でうわさになって広がり、子供が将来他県に出た時、同じ福島県民としてくられることでいじめにあうようなことにならないといいな・・・と最近つくづく感じます。
- ・最初は家族みんなで引っ越せば放射能の不安から解消されると思っていたのですが、子供が小学生ともなると転校先でバイ菌扱いされ、いじめられたりしないだろうかと思うようになり、もし転勤の場合は主人に単身赴任してもらった方が良いのではと思うようになりました。

同じ幼稚園のお母さん達とはあまりこのような話はしません。お家をすでに自分で建ててしまっ引越せないとか、転勤がないからずっと住むしかないという人もいて、それぞれの事情もある為、話しにくいのです。

- ・これから転勤で別の県などに行った時、福島から来たということで、子供達がいじめられないかという心配はあります。ですが、ずっとここにすることは不可能なので・・・いつかそういう日が来るんだろうなと思ったりする事はあります。

結婚

- ・娘（6才）と息子（14才）がいる。将来、あの時（平成23年3月11日）に福島に住んでいたことが、結婚、就職等に影響を及ぼさないか不安である。遠方に出掛け、住所を記入する時、「福島県」と書くことに、他の人々はどう思っているのか不安になることがある。また、住所を書くことに躊躇をおぼえる。子供には幸せになってほしい。故郷に、誇りをもってほしい。
- ・4年になりますが一番は、子供（娘）3人の将来の事が心配でなりません。しあわせな結婚ができるのか？他県の人はいじめなど、健康の事考えると、心配です。こうゆう調査を、他県の人に調査して、福島の今、これからの事どう思っているのか？好きで原発事故に合ったわけではないのに、放射線がうつるとか言う人もいます。自分がそのたちばだったらどうなのでしょう。人の言葉はこわいです。
- ・将来、福島人とは結婚してはいけないと理由をつける親もいたら、ますます少子化ですね。私達親は死んでいてもおかしくない年なのでかまいませんが、10年、20年たって青年になった子供達は幸せになっているのか心配です。将来何の保障もないのですから。
- ・先日、友人から結婚が決まっていたのに福島出身ということで破談になった方の話を聞きました。自分の子供が結婚するのはまだ20年位先だと思えます。その頃には県外の人からすれば原発事故の事は忘れ

られているか、今よりもっと他人事になってしまっていると思います。ですが、自分の子供の結婚相手が福島出身と知ったら、忘れていた原発事故の事を急に思いだし、偏見の目で我が子が見られるのではないかと多少なりとも不安があります。

- ・ 県外での差別があるのではないかと？さらには、子供が大人になり結婚する際に、県外者などから、「福島の人とは・・・」と反対を受けたりするのではないかと？とあげ出せば切りがない
- ・ 原発事故時から福島に居続けていることで、娘達が将来結婚をする時など、他県出身の方からは敬遠されることがあるのではないかとという心配もあります。
- ・ 子供が将来、県外の人とは、結婚しづらくなるだろうと考えると、少し落ち込むこともあります。今は、県内で生活は不便ではないけど、県外で福島がどういうふうに見られているかが心配です。

差別

- ・ これから子供達の成長とともに健康被害や差別などを受けるかも知れません。もし、そうなった時に強く生きていける様、日々子育てをしているつもりですし、そうならない様祈りながら私が出来る事を続けています。
- ・ 将来、子供達が、県外の子供達と比べて放射能の影響がでるのではないかと、あの時福島にいたから・・・と差別をうけるのではないかと考えればきりがありません。福島の本当の現状はどうなんだろうかと、自分でもわからなくなります。不安があっても、正直口にだすことができません。話しても解決法がなく、自分にストレスがかかります。周囲の人達に考えすぎだとか、話してもしょうがない、どうしようもないことなので。
- ・ 子供が将来、福島出身であるということで差別を受けるのではないかと、ということが心配。
- ・ 福島に対する差別や偏見で子供たちが傷つくことがないかと心配してい

ます。

- ・福島に対して差別的に扱う人もいるようなことも聞くので、色々深く考えると将来が不安になります。

「フクシマ」を隠そうとする自分に気づく

- ・東京など行った時に、「フクシマ」という言葉をかくそうといしている自分がある。「フクシマから来た」ことで、他の人に嫌な目で見られることが嫌だからだと思う。また、震災後、「福島メンバーの車」でイタズラや嫌がらせをされた方がいるので、そういうものもこわいと思っている。
- ・先日、東京へ出向きました。毎日過ごし愛着も誇りもある福島県郡山市を堂々と口にできなかった自分にハッとしました。東京に住み暮らす他人に、「福島」「郡山市」と言うことで、偏見や差別の目で受けとめられたら・・・と恐れる自分がいました。今、福島県で元気いっばいに暮らす子供達が、県内外でこの震災や事故を理由に偏見や差別を受けないことを切に願います。以上が今の心境です。

(4) 避難・賠償の取り扱いに差異のある人

行政や東電が行なった賠償・補償の線引きに対し、他人が優遇されていると感じ、その恩恵を受けている人に対して怒りや不快に感じるという意見が依然として多い。

- ・どうして何千万も東電からもらい仕事もしないで家を建て暮らしている人いるのでしょうか？怒りのほこ先がだんだん福島県民同士になっている気がします（東電や国ではなく）ねたみやひがみですが、浜通りから避難してきた家族や子供（自分の子供の友人）とはあまり仲良くしたくありません同情も・・・正直出来ない人もいます。
- ・また、そう訴えておきながらもらうものはもらっているんだろうな（お金）と何もかも手に戻そうとしている姿は見るに耐えかねます。同世代で避難されている方がママ友でいますが、個人的には好きで

す・・・が、どうしても後ろに金銭的な余裕が見え、しこりが取れないのが悲しい所でもあります。

- ・二本松市内の自然公園、(水源地・観光資源)地内に、放射性廃棄物減容化のための仮設焼却場建設の計画が、住民に説明のないまま進められています。日本中どこを探しても賛成する地域なんてないと思います。原発避難地域を国が国有地としそこで何もかも処理するのが一番問題がないと思います。二本松は、浪江町の避難者を受け入れていますが、避難者の方は未だに1人月10万円も賠償金を受けとっており、新車を買ひ、新しく家を建て、飲み歩き、パチンコへ入りびたり・・・・・・・・受け入れている二本松市民との溝は深まるばかりです。原発問題は何も解決していません。同じ県民同市なのに、わだかまりが生じ、仲が悪くなっている気がします。原発依存社会、そして再稼動に向かっているこの国の政治にはうんざりし、反対の声をあげ続けていくつもりではいます。
- ・浪江などの必ず避難しなければならない場所にいた方の苦勞も理解しているつもりですが、実際に同じ“福島市”に住んでいて、“賠償金の差”が生活の差となって、表れており、もともと福島市などに住んでいたいわゆる中途半端な位置だった人への賠償に今になってから不満を感じている。例えばマイホームの夢をもって夫婦で働いてきた家庭の横で、働かずにポンッと新築の家をたてる避難者の方々・・・。

(5) 特徴

①「夫婦・親族」に関する意見が9件(2014年)から5件(2015年)に減少したのに対し、②「近所・知人」に関する意見が13件(2014年)から19件(2015年)、③「外部」に関する意見は29件(2014年)から72件(2015年)と増加した。人間関係に関するものの中で③「外部」に関する意見が最も多い。また④「避難・賠償の取り扱いに差異のある人」との間の人間関係に関する意見は8件(2014年)から54件(2015年)と

大きく増加した。

7 情報

(1) 情報収集

情報の収集に関する意見は、①情報不信、②関心の低下の2つに分けられる。

①情報不信

情報不信については、ニュースや新聞などの報道や国・東電が出す情報に信用できないという意見や隠蔽しているのではないかという意見が多い。またあふれる情報にどの情報が正しいのか判断がつかないという意見もある。

報道の不信

- ・福島原発事故による放射線量の報道が少なくなってきているのと、福島は安全だという報道に寒気を覚える。安全であるという根拠、データに信憑性を感じる事が、まったく出来ない。
- ・ニュースや新聞で、「原発の影響とは考えにくい」と言うコメントを聞くが、信用出来ないのが正直な気持ちです。
- ・国、東電、マスコミを信用できない。都合の悪い事は、国が情報統制し、国民を欺いている。そしてまた3.11が近づくと「あれから4年・・・」とか「忘れてはいけない記憶」とか、一斉に報道番組を賑わすのだろう・・・腹立たしい。
- ・不安を煽るような情報を無闇に流さないで欲しい。子供の将来の不安もあるが、差別を受ける事のない様、正しい情報を伝えて欲しいです。

情報が多すぎて何を信じて良いかわからない

- ・情報量が多すぎて、正しいのか、まちがっているのか、自分で判断せざるを得ない。私はまじめなタイプの人間ではないので、情報に対し、深く考えるのが面倒なので「ふ～ん、そうなのね。」くらいの感覚。

でも私みたいな人は結構いるのでは?とも思う。本当に正しい情報が「正しい」と当たり前にも思ってもらえるように、「原発の情報」がなくて欲しいと思う。そうなるまで、私としては他人に対し、発言することはできない。これは子供に対しても同じ。いろいろ理解できる年頃に成長したら、「どうしようかな」と思う。なので、小学生や中学生のお子さんを持つ親御さん達は、もっと苦労というか悩んでいるのでは?と最近、思う。

- ・情報も何を信じれば良いか、判断がつかないことが多々あります。

考え方の違い

- ・放射能に対していろいろな考えがあるので、どの人の意見を参考にしていかが迷ってしまいます。

情報を隠している

- ・情報が正しくなく、かくされていると感じます。
- ・情報をストップ(隠し)しすぎていたために、市民のひばくを最小限にできていなかったのがくやしい。ひどい。保健所からのアドバイス(2011年4月11日ころの)も、後になってから考えると(情報が明るみになり始めてから考えると)、だいぶ誤りがあったのに、信じてその通りにしてしまった。ひばくが増えたと思う。(汚染が室内にふえた)ともかくにも、東電のたび重なるウソのくり返しや事実でない(公表しない)話には、いかりを通りこす。逃げてばかり。無責任。
- ・事故当時に比べると、恐怖感・絶望感というものは大分薄れてきています。ただ慣れてきた、とでも言いましょうか・・・。事故の影響の情報の後出しや隠ぺい等、東京電力や国への不信感はある状態です。

正確な情報を得たい

- ・正確な情報が欲しい そこは、もっと福島県民、全国民にきちんと説明するべき!もしくは各家庭で検査できるものを欲しい
- ・正しい情報と報道はまだまだつづけてほしいです。

- ・正しい情報がほしいです。「フクシマ」の風評被害→少しでもなくなってほしい。

②関心・風化

日常生活が元に戻ったという意見、事故の記憶が薄れ、関心が低下したという意見が多数指摘されている。また、事故から4年が経過し、「あきらめている」や「慣れた」という声も聞かれる。そのような中で、自身や周囲の原発事故の風化に対して不安や心配を覚える者も多い。

あきらめている

- ・毎日ニュースで汚染水流出と伝えられているが、もう聞きあきているし、あきらめている。
- ・風化しつつある状況など他県の方の状況はもう仕方ないことだと思っています。
- ・‘放射能’という言葉に少し疲れたような、慣れてしまったような気がします。
- ・どうする事もできないので、あきらめています。

関心が薄れた

- ・震災の記憶が少しずつうすれてきていて、放射性物質・線量についても関心がうすれてきている。おそらく大丈夫なのではないか、という根拠はないが、前向きな気持ちを持っている。大変な中に生活しているが、少しずつ日常を取り戻しているように感じる。(中通りの人間だからだとは思うが。)
- ・時間が経ち、少しずつ放射能への警戒心がうすれてきているので・・・でもすっかり忘れることもできないでいます。
- ・放射能の影響は思ったより意識が低くなってきている。震災の記憶もときどきしか思い返さない。
- ・震災や原発事故の記憶がだんだんと薄らいでいく中で、放射能に関することへの意識もかなり低くなりました。

風化が不安・心配だ

- ・風化していくのが寂しいし、不安を感じる。
- ・4年経ち、みんな忘れかけているので余計に心配になります。
- ・あれだけ大きな災害であったのに、もう忘れかけていることに少し不安を感じます。
- ・自分の中で風化しつつあるのが怖いです。ただ、気にしすぎてもストレスだなどと思う心が少しずつ風化してしまう裏の心なのかもしれません。
- ・徐々に原発事故の事を忘れてきつつある為、常に風化させない様思い続けている。

生活が元に戻った

- ・事故後、3年が経過した頃から、以前とは変わらない生活を送れているような気がします。
- ・約4年たって、表面上は以前と変わらない生活をしています。自分も周囲もそうなので、とても不思議な気がします。外出先で親子連れを見ては、「あの人も私と同じように不安や不満を持ちながら暮らしているのだろうか？」と思うこともあります。
- ・福島に住んでいる私達は、あまり気にする事もなく今まで通り生活していますが、他県の方々のほうが、過剰になっている気がします。震災を経験した子ども達は地震があっても動じる事なく生活しているのに、他県の大人達が過剰になるといつまでも子ども達がかわいそうです。「忘れる」ではなく、前向きにいきたいです。
- ・自分達の生活も普段は震災前と変わらなくなってきてはいます。何よりも、他県では原発の様子もあまりTVでもやっていないとの事でだんだんと原発事故の事が忘れられてしまわないのか、こわいです。
- ・もう4年も経ったのだというので率直な気持ちです。ですが、今は震災前とほとんど変わらず過ごせていると思います。

話題にならなくなった

- ・友人との会話にも原発の話はほとんどできません。
- ・震災の事は私達の地元では放射線量が低い事もあり、あまり話題にも上がらない程です。
- ・震災後から比べ、家族や友人との会話の中で放射能の話題はほとんどしなくなりました。
- ・ふだんは放射能など、あまり気にしなくなっているし、話題としてもあまり出てこなくなりました。
- ・学校生活では、ほぼ通常にもどっています。まだプールや運動会（半日）など影響が残っている事もありますが、私のまわりでは、あまり話もしなくなりました。その分心も安定しています。
- ・事故の話には、ほとんどならなくなりました。（夫とも知り合いとも）お互いの中で「あえて触れない」というよりは、いつまでも、事故のことを引きずっていても仕方がないという気持ちがあるような気がします。事故を忘れて、風化させるのではなく、決して忘れず、でも前向きに生きていかないと、福島ではやっていけないと考えています。
- ・もう4年もたったのかという気持ちとまだ4年しかたっていないという気持ちと両方あります。4年たって原発事故の話や放射線についての話がされることも少なくなってきたと感じます。皆忘れたふりをしているだけでしょうか。

③特徴

情報不信に関する意見は10件（2014年）から46件（2015年）に増加した。マスコミや国・東電の情報への不信感や隠蔽を不安視する意見がみられた。また情報が多すぎることやさまざまな考え方が存在し、何を信じたら良いか迷うという意見もみられた。

関心の低下に関する意見は14件（2014年）から153件（2015年）に

大きく増加した。原発事故からおおよそ4年が経過し、あきらめた、関心が薄れた、生活が元に戻った、話題にならなくなったというような意見が多く見られた。

(2) マスコミの功罪

①風評被害

マスコミの報道による風評被害を危惧する声が聞かれた。

- ・全体的には、それほど心配はしていないのですが、心配している人がテレビで、「大変だ」とか言っているのを観ていると、その人にとっては本当に大変なのかもしれませんが、福島のイメージが悪くなり、一生懸命、働いて、安全なお米を作っている米農家の人がお米の値段が上がらず苦勞しているのを現実身近に感じている私からすると、安心だというアピールも必要だと思います。そこで、普通に暮らしている人達だったくさんいるのですから。
- ・相変わらず片寄った知識と偏見で福島を見る県外の人とマスコミにイラつきます。世界中の国や地域の放射線量と居住者の健康状態を見てから、福島のことを語ってほしいです。

②風化しないように伝えたい

風評被害を危惧する声がある一方で、震災から4年が経過し、マスコミの報道が減っていること、報道が一部の地域に限られていることに不安を感じる声も聞かれた。

- ・原発事故の事もあまりニュース等で取り上げられなくなり、他の県の人とか忘れてしまうのではと思っています。
- ・テレビのニュースで福島原子力原発所が取り上げられることはありますが、その他の福島県内の市町村においても原発事故が継続中だという事を県外の方がどれくらい気にとめてくれているのか、心配になります。一步間違えば日本中の人が影響を受けたかもしれない大事故な

のに他県の方々から「福島だけの問題」と思われるようにならないことを望みます。

- ・震災、原発事故から4年経ちますが、TVなどでは、風化させない・・・とは言っている、周りは少しずつ風化しているように感じる。また、TVで、今現在の様子を上げるのも浜通り中心、中通り（福島、郡山）でも避難せずに、4年間頑張って生活する人は多くいることを忘れないで欲しい。
- ・この災害が忘れられないようにして欲しいと思います。
- ・風化しないように、伝えていきたい。伝えてほしい。

③その他

- ・公共機関から出される数字やニュース、私はつい疑いの目で見えています。自宅周辺や登下校の道路について個人的に依頼して調べてもらおうと思っています。（そういう機関があると教えてもらいました）そして少しでも子どもが被曝しないよう気にしすぎない程度に気にしていこうと思っています。死産してから3年半。このプロジェクトでは私が書いた内容に最初に反応して下さいました。すごく嬉しかったです。思った以上に発信する場がないなあと感じます。
- ・県外の方には、ぜひ今の福島を知ってもらいたい。ラジコでラジオ福島の番組、「月曜 Monday 夜はこれから」PM7:00~PM9:00を聞いてみてください。
- ・私は身内に東電社員がおりますので、東電だけを批判するような報道には胸を痛めています。例えば損害賠償を求める裁判などのレポートなど。故意の事故ではないと思うので。また、信頼回復のための地道な活動を継続している事を聞いているので。
- ・東京電力で作った電気を使っている方々の中で、風化しつつあるような感じがします。福島原発でのトラブルはひんぱんにテレビで放送されても何も感じていないのではないかと、と思います。

- ・メディアを通して全国的に放射能の正しい知識を発信して子供達がどこへ行っても安心して暮らせるようにしてほしいと思っています。
- ・テレビでもずいぶん、クリスマスの時期に東京などのイルミネーションを中継していました。都会の人の学習能力のなさ、当事者意識のなさは、かなしさを通りこして、怒りさえ覚えます。`中央対地方`のテーマは、川端康成も論じているほど、昔からある問題ですが、中央の人が地方に生かされ、依存していることを自覚するには、地方の人的、物的豊かさが搾取されつくさないと無理なのかな、と暗く考えることもあります。東京の人は、たぶん福島は切りはなしてしまったのかもしれないと思います。「福島」は日本ではなく、どこか別世界の話になってしまったのかもしれないですね。私はずっと、福島県には何もアピールポイントもなく、見立たず、地味で何もなかった。しかし、こうなって何もかも失ってみれば、それは何もないのではなく、あまりにも当たり前にも何もかもがあったために、どこでもそうだと思い込み、豊かさに気付いていなかっただけではと思います。

8 賠償・補償

(1) 賠償

①賠償の打ち切りによる不満、子どもの将来の損害に対する賠償

東電の賠償の打ち切りに対する不満や子どもの将来の健康被害に対する賠償が適切になされるかという不安がある。

賠償の打ち切りによる不満

- ・2~3年前の2度の賠償で済まされた事にはイラダチ感じる(ストレスになる)。
- ・賠償金は終わった。でも現在も少しずつではあるが放射能をあび続けている。やり場のないもどかしさ。補償は減らされるのに取られるものは増えていく。考えるとイライラする。

- ・ニュースで避難されている人、助成を受けている人を、ニュースを聞くと、不思議な気持ち、そして不公平さも感じます。一時の保障のみで終わった郡山市民、私の両親のいる村では“なかったかのように”過ごすしかないのです！！
- ・福島というだけで、全員が毎月賠償金をもらっていると思っている方も多いのではないのでしょうか。福島市は1度だけでした。同じ幼稚園で、福島市に避難してきている友達もいますが、子供の服はブランドもの、長期休みになると、海外に行った、という話を聞くと、なんだかもどかしい気持ちになります。故郷を失った絶望感と比べたら、我が家は幸せだなーと思う反面、ちょっぴりうらやましい気持ちも。一番かわいそうだと思うのは、避難されているお年寄りの方です。車で出かけるわけでもなく、知り合いもなく、早く帰れることを祈っています。

子どもの将来の損害に対する賠償

- ・子どもに対する賠償に対して。→これから、未来があるのに、賠償は終わってしまうのか。
- ・国は、大事なことをひた隠しにしています。同じ福島県民なのに、かたや、1人1人が補償され、原発圏外は、補償されていない。原発付近の地域の方々よりも、今、福島県に住む、未来ある子供たちを対象にしてくれるべきだと思いました。浜通りの方々ばかりが苦しんでいるわけではなく、苦しんでいるのは、皆同じです。大人の方よりもまずは、子どもたちを最優先すべきだと思いました。
- ・東電の保証、反省、足りなすぎ。お金でもらっても心はお金じゃダメ。だからと相談員みたいな市の人から Tel もらっても迷惑だし、話する気もない。知らない人に何でも話してとか Tel くるが、かなりウザい。話したって解決しないし。東電の人からの直接の謝罪は、避難してくる人しかしてもらえないとか、ありえない。福島人は福島人でしょ。なのに避難している人だけ保障とかおかしい。保障してもらっ

てる人、パチンコとか、やってるのみると腹が立つ。仕事を変えなくちゃいけないで変えて頑張ってるうちみたいな人にとても失礼！そうゆう頑張ってる人間の保障を県も東電も国も市もやってもらいたい。せめて、子供達だけでも一生保障してほしい！！

- ・国と東電からの補償も全く割にあわないと思います。成人するまでは、補償金を支給してもらわないと怒りを感じてしまいます。

②賠償の対象、範囲の線引きに対する不満

多額の賠償をもらう地域ともらえない地域が明白になり、賠償範囲の線引きに対する不満が指摘されている。

- ・ここに住んでいる私達は一生つき合わなければならない状況です。もう少し先の事も考えてとりくんでほしい事がいっぱいあります。ひさいされている方にはお金の面はきちんとしてくれてもその周りには何もしていただけないのは悲しいかぎりです。我慢ばかりで残念です。
- ・個人的に賠償請求をしたが、引っ越し費用のみの請求だった。福島市もかなり線量は高かったのに、たいした賠償もない。浜通りの人々は未だに月々1人何十万ももらっていて、市内のあらゆる土地を買いしめ、大きな家を建てている。土地や家を無くし、古里に帰れないとはいえ、不公平感はぬぐいきれません。同じ思いをしている人は多いと思います。
- ・放射能の低いところにひっこししたので同一市町村だからといって、家賃をはらってもらえない線引きは、今も納得がいかない、300世帯はあてはまったのに200世帯が自主避難としてみてもらえなかった色々とお金がかかる、大変・・・

③特徴

賠償の打ち切りに関する意見が2014年と2015年において22件と横ばいで、賠償範囲の線引きに関する意見が58件(2014年)から50件(2015

年) とやや減少した。

(2) 社会保障

①子どもの健康

子どもの健康被害に対し、対策と賠償・保障が適切に実施されることを望む意見がある。

- ・子供達の将来の健康面の保証も何もないまま、政府の対策も、市や県の対策も、何もかもに不満ばかりです。いつになったら、安心して子育てができるのでしょうか。健康の保証がほしいです。
- ・今後子どもたちへの健康に影響が出た場合には国にはしっかりと援助、対策をしていただきたいです。今はそれだけを期待したいと思います。
- ・将来、子供が病気になった時などの保障はあるのか？福島市、郡山市は線量が高いのに、補償されないのか。不公平感を感じてしまう。

②家計負担

前記「保養に行けない」にも挙げられていたが、保養にかかる宿泊費や交通費が家計を圧迫しているため、費用負担の少ない保養プログラムの拡充と医療費の保障を求める意見がある。

保養

- ・保養のための宿泊券や交通費負担してほしい。
- ・除染や、検査は、ずっと続けてもらいたい。保養や保障もできる限り充実してほしい。
- ・毎週福島県以外に子供を遊ばせているためお金がくるしい、何か、国から県からあってもいいかな・・・と思う！

医療費

- ・福島県民の補助を増やしてほしい。大人も医療費がかからないようにしてほしい。

- ・放射能の影響がある・なしに関わらず、国は、医療等の保障をしっかりとすべきだと思う。それを、無いだろうからという前提で考えるべきではなく、ある前提で考えてほしい。無ければそれが一番よい事なのだから。

その他

- ・放射能のせいで無駄な出費もあります。そういう意味でもまだまだ保障をして欲しいです。不確かな不安ばかりがたくさんあって、情報が入ってきて、安心するような、少しでもストレスを軽減できるような情報をもっとたくさん国や東電には発信して欲しいなと願います。

③特徴

子どもの健康に関する保障についての意見は、11件(2014年)から14件(2015年)に増加した。また保養や医療費の家計負担を軽減させるために保障をしてほしいという意見があった。

(3) 租税

原発事故後の税金負担を免除してほしいという意見がある。

- ・補償ももっとちゃんと考えて使うべきところに使ってほしい。事故後、何かと出費が増えている。税金(県民税など)の免除など考えてほしい。→(一部ではなく全福島県民)
- ・震災後は税金を少し減らしてほしいと思った。負担を感じる。
- ・原発事故で避難している方々に、医療費や税金の負担をしてほしい。クリニックに勤務していますが、無料だからと「ついでにあれも、これも」という態度にうんざりしています。
- ・東電による被害を受け、未だ解決もなく己々がなるべく気をつけるしかない状況で、電気は値上がり。福島なのに、復興税もとられるの?と政治には不満ばかり増していく。避なん区域の人は、高いお金をもらい、はたらくことがバカバカしいとまで言っている。はたらかずに

お金をもらい、安全な場所にひっこし、毎日あそんでいたり、車をかったり。お金で解決するなら、きちんと管理やはあくをしてほしい。もう避なん区域の人たちにお金は必要ない。他に回してくれと思う。そんな所にお金をばらまくなら、定期的な除洗なり、役立つことに回してほしい。検査をさせてやってる、してやってる的な態度、はらただしい。

(4) 対応全般

①行政の対応に対する不満

行政の対応に対する不満がある。例えば、除染で出た廃棄物の処分場に対する不満や事故から4年が経過しなかなか進まない復興に対して、対応の遅さを指摘する意見がある。また原発事故から生まれた差別や偏見をなくす対応を国に進めてほしいという意見もある。

処分場計画

- ・中間貯蔵地の受入れが最近、やっと決まりました。その候補となっている地域に住んでいた方には気の毒だが、除染しても、線量が下がらない。何年も何十年も戻れない地を中間貯蔵地ではなく最終処分場にしないのは何故なのかと、国・県に疑問を感じます。最終処分場に候補となっている、隣県へ、汚染の危険があるにもかかわらず、「安全」をうたって、処分場設置の計画をすすめていることが分かりません。「自然」は子どもにとっても、私たち大人にとっても、財産です。心を癒し、生きることを教えてくれる、偉大な財産です。それを国や、福島県、または福島県民はキレイな場所を汚染しようとしています。これは決して許されることではありません。原発を誘地した責任は福島県にもあるのだから、いつまでも被害者面していないで、自分たちで、何とかしていかなくは、復興はあり得ません。東電が罪を認め、誠意をもって対応し、福島県は現実を受け入れるべきだと思います。

- ・「いつまでも被害者では、いられない」と議員の人から言われた一言が、怒りを覚えた。私たちは、お金が欲しいとか言ったわけでもなく、なにかを欲しいと言ったわけでもなく震災後も変わらず生活している。他の市町村では、旅行代金をだしてくれたりと色々と行政で動いて恩恵を受けている所もあるが、この周辺では、全く無い状態で、「被害者で・・・」と言った一言を聞かされるのはおかしいと思う。除染ででたゴミなどは、敷地内に全て埋めている。除染のその他のゴミを周辺に処分場を作り、焼却処分するという案が現在でてきている。いつ、私たちは、被害者だからと言ってきたのか、なぜ小・中学校など子供たちが今いる所の近くを通らせて処分場まで運ばせる必要があるのか、疑問である。どの親も子供たちから遠ざけたいと思うのはあたりまえではないだろうか？
- ・二本松市内の自然公園、(水源地・観光資源) 地内に、放射性廃棄物減容化のための仮設焼却場建設の計画が、住民に説明のないまま進められています。日本中どこを探しても賛成する地域なんてないと思います。原発避難地域を国が国有地としそこで何もかも処理するのが一番問題がないと思います。二本松は、浪江町の避難者を受け入れていますが、避難者の方は未だに1人月10万円も賠償金を受けとっており、新車を買って、新しく家を建て、飲み歩き、パチンコ屋へ入りびたり・・・受け入れている二本松市民との溝は深まるばかりです。原発問題は何も解決していません。同じ県民同市なのに、わだかまりが生じ、仲が悪くなっている気がします。原発依存社会、そして再稼働に向かっているこの国の政治にはうんざりし、反対の声をあげ続けていくつもりではいますが、
- ・復興については、県知事さんなどに、おまかせするしかありません。収束するには、まだまだ先のように、この影響を受けているのが福島県だけですが、もし、他の県だったら?!と考えるとほしいです。仮置場とか、気が遠くなるような話で・・・もし、日本で、また、どこ

かで原発事故がおきたら、日本は、終わりだなと感じています

- ・ 原発事故に対しての国<都道府県<市町村と考え方、対応のギャップが大きいと年月が経つほど感じます。選挙をしている場合でもなく、弱者が忘れられていて、そう感じても、自分の生活もいっばいになっているのが悔しいです安心して生活できる土地は大切ですが、安心して生活できる雇用を考えることも国全体の責任と思っています。

対応の遅さ

- ・ 県も、市も、何を考えているのかわからない。除染を頼んでも、低いところは、やってもらえないのは、ひどくないですか？私だって、子供いなくて、1人身なら、そんなわがまま言いませんけど！！って感じ。言うだけ言って、何もしてくれないのが、現状ですね。
- ・ 福島県の復興を早く進めて欲しい。
- ・ 国、県でも少しでもスピードあげて、対応を進めて行ってほしいと思います。また、子どものあそべる環境はしっかり整えてほしいです。除洗の土も庭にうめたままですし・・・いつまでこの状況なのか・・・時間とお金ばかりがついやされて現状は動かないままは1年たっても4年たってもかわらないと感じてしまいます。
- ・ あまり状況は変わってはいません。ただ、年数はたっていくので、復興というように、元にもどすのがあたりまえになっています。まだまだ気をつけなくてはならない事はたくさんあると思うのに、行政が形だけ急いでいる感じがします。

差別への対応

- ・ 国に求めることは、原発の事後処理も大切ですが、そういった差別がなくなるよう（しないよう）授業のカリキュラムに、正しく原発事故を学ぶ時間も取り入れたり、せめて同世代の子ども同志だけでも差別のない社会になるよう取り組んでほしいです。

②東電の原発事故対応に対する不満

東電の原発事故対応に対する不満もある。例えば、対応の遅さ、処理に対する不手際、誠意のない事故の対応についてである。また原発事故から4年が経過し、進まない復旧作業に対し、早い収束を望む声がある。

誠意のない対応

- ・ 原発により、生活が一変しましたが、東京電力さんの電話での対応は、誠意のないものでいきどおりを感じます。
- ・ 原発事故については、これだけの被害を出しておいて誰からも謝罪もなく、誰も責任をとらないことに強い憤りを感じます。
- ・ 地域によって、申請の順によって差別されているようですごく不満に思っている。東電の対応や、国や福島県の対応も親身さを感じないので、不満だ。自主避難はすぐ先の未来も不安なのに、もっと丁寧な対応を望んでいる。
- ・ 国と東電は、何事もなかったかのように、福島と避難者の存在を見て見ぬフリしているような気がしてくやしい気持ちになります。

処理に対する不満

- ・ ただ原発事故後の東電の対応や事故後の不手際な処理の報道を見るたびにあきれいています。国の対応にもがっかりです。まだ県や市町村の対応の方が評価できると思っています。4年もかかっても全く事故処理の決着がつかないのですから、この問題が解決するのに何年、何十年かかるのか、それこそ今回の調査対象の子供達が大人になる頃に負の遺産を残したくはないのですが、先が見えなく不安です。国や東電は早急に責任をもって原発事故後の諸問題を解決して欲しいと思います。
- ・ 原発事故後、復旧作業も次々と問題が出て来ている様ですごく不安を感じる。

対応の遅さ

- ・ 早く収束してほしい。4年もたつのに何も進んでない。

- ・東京電力の対応の遅さ、にぶさから信用できない。原発に代わる自然エネルギーの発電に早く切り替えてほしい。また同様の事故が起きたら・・・とたまに考えるとおそろしくなる。
- ・事故後の対策にしても、何とか取り組んでいる様子はみられるが結果がみえてこないように感じる。今後に期待はしたいが、不安と不満も大きい。

③原発事故を踏まえた原発の是非

原発事故の被害を経験し、原発再稼働について否定的な見解と原子力代替エネルギーの開発を望む意見が多くみられた一方、原発再稼働を望む意見もわずかだがみられた。

再稼働反対

- ・原発再稼働のニュースは、「なんでだろう」という気持ちになります。
- ・地震大国で、まだ再稼働なんて言っているのは本当にアホなのかと思う。
- ・原子力発電所のない世の中になって欲しい。
- ・各地で原発再稼働が進められているが、その報道を耳にするたびに、腹立たしく感じる。平気でそのようなことが推し進められていることに、人々は全然現実がわかっていない人だととてもむなしくなる。
- ・原発をやめてほしい。
- ・震災がおき原発になり何十年かかるかわからない原発が今でも憎いです。
- ・国はどうして原発を使い続けるのか。こんなことがあったのに何も反省していない政府にこれからをまかせるのかと思うとゾッとします。この国の未来はあるのか、国民のことを考えているのか、政治家は我が身に起きたことではないからそうやっつけられるのです。

原子力代替エネルギーを望む声

- ・原発とは、また違うエネルギーの開発を望みたいです。

- ・ 原発政策、結局震災前と変わらずがっかりです。結局他人事なんですよ。ね。原発に頼らない電気エネルギー源を本気でとりこんでほしいのですが・・・。

再稼動を望む

- ・ ただ、家がオール電化だということもあって、電気代や原発再稼動の問題には、注意するようになりました。意外に思われるかもしれませんが、原発は早く再稼動してほしいと思っています。

④ 寄付金の使途に対する疑問

寄付金の使途に対する疑問を呈する意見もあった。

- ・ 支援していただいているのが一部であり、義援金もどーなっているのかも不明。
- ・ 福島県は復興支援金として何千億ももらいます。人をよんで福島を盛り上げるのも大切ですが、もっと今大切な事があると思います！

⑤ 特徴

対応全般に関する意見は、39件(2014年)から86件(2015年)と大きく増加した。行政の対応に対する不満、東電に対する不満、原発の是非はいずれも増加している。

9 健康

(1) 子ども

① 現在

- ・ 震災の時に3ヶ月だった娘が少し小さい気がする。食欲はあるのですが・・・。
- ・ なるようにしかならないと、プラス思考でやってきましたが、今年の子供の検査でA2判定をうけて、深刻さを痛感していた所です。
- ・ 震災の1~2年後よりも、今の時点の方が、放射能の影響があるので

はないか、心配になっている。

- ・久しぶりに地震があった際、子供がフラッシュバックしてしまい少しパニックになってしまった。
- ・●●はアスペルガー症候群という障害があり、私は二年前より精神を病んでおります。
- ・子どもが将来何らかの病気を発症するのではないかと不安は常にあります。震災以降、私も子どもも少しの揺れ（地震）だけでなく、風で家がきしんだり、普通に歩いていて床がきしんだりするだけで、不安になることが増えました。上記についてあまり思いつめない様になっているのですが、1度考えると、大きな不安に悩まされます。

②将来

- ・将来の健康不安は常にあり、実際に何十年と経たないと分からないと思うので、考えれば考える程ツライです。
- ・本当の怖さはこれからなんだと感じています。子供たちが成長していくにつれての身体の心配も大きくなってくると思いますし、自分自身の健康への心配も少なからずあるのは事実です。子供たちが将来苦しまなくて（原発のことで・・・）済むように・・・なれば・・・とは感じています。
- ・昨年末に甲状腺検査をしたらう胞あるようです。私のみた感じでは成長期でもあるので心配ないとは思いますが結果は後日郵送しますと言われていてまだ結果がこないので子供のことが心配！！大きくなるといいけど・・・。子供の体大丈夫？不安。いつになったら不安なくなるのかな？きっと子供が結婚して子供産んで元気な赤ちゃんだったらすこしは不安なくなるのかな～？
- ・子どもの将来を考えると不安は多くあります。本当に大丈夫なのか？身体への影響はないのか？女の子であっても男の子であっても、元気な子どもをうむことができるのか？

- ・原発事故直後、放射能に対しての知識もなかった事や、事の重大さの認識も少なく、どちらかと言えば、子供達を容易に屋外に出させてしまった事で、将来の体調の変化、症状が出ないかだけが心配です。
- ・子供をここに住ませて良いのか？将来どうなるか？これからどうなるか？という心配は全く2011年からかわりません。
- ・「今の所健康への心配はない」といわれても納得できず、低線量被ばくの影響を長期間受け続けなければならないことへの不安がかなり大きい。
- ・原発事故が子供にどう影響してくるのかわかりませんが、大きくなっていく子供が、いつか病気になってしまう事があった時、やはりお金の事が不安になります。ガンのような病気は特に。
- ・まだ子供も小さいのですが、もし大人になって病気が出てきたら・・・産まれてきた子供(孫になる子)になにか異常が出てしまったら・・・不安に思うことがたくさんあります。

(2) 親

①現在

- ・私自身は、大震災があってから、少しの物音が気になり夜、少しでも風が吹くと眠れないので耳せんをして寝ています。
- ・以上のことによりかなりのストレスを感じてすごしております。私自身もどの違和感を感じる事が多く、診察をうけた結果、水胞が見られるとのこと。放射能と関係があるかわかりませんが、不安です。
- ・自分自身が、最近ここ数年気分が晴れずうつっぽくなる事が増えた。さいわい、薬がきくので、変だと思って、飲み始めると1週間程で快方に向かうが、完治はなかなかしない。しっかり原発事故の影響は現われ始めていると感じている。
- ・道路をトラック等が走る音や振動が怖いと言うかドキドキします。何をしていても地震がきたらどうしようと思い、心から楽しめません。

②将来

- ・身内・自分も含め甲状腺病での手術や通院が続いているため本当に原発の影響の無いのか不安もあります。1番の心配はやはり子供……。これから先、本当に大丈夫なのか不安です。
- ・今は、今の生活や子育てに夢中、精一杯で、考えているヒマもなく、毎日がすごっていますが、将来は、ボケないか、ウツにならないか……。など、少なからず、不安はあります。
- ・子供や、自分、そして災害派遣に行っていた主人の健康状態は、一生不安がついて回るかもしれません。

(3) 甲状腺

ニュース・新聞報道から

- ・まだ4年、もう4年という感じでしょうか。チェルノブイリの時は、4年で小児甲状腺がんがピークになったと言われていました。福島は、牛乳の出荷制限をした為が、それほど大きな問題にはなっていませんが、小児甲状腺がんのお子さんは、何人かいるとローカルニュースでみました。全国平均で100万人にひとりに対し、福島は200万人の人口に対し、何十人といるようです。
- ・チェルノブイリ原発では、5年後に甲状腺ガンの子供が増えたこともあり、年数がたつ度に自分の子供はどうなんだろうかと悲しくなってしまう。
- ・ニュースで、福島の子供達にがんが発生しているとき、人ごとではない不安になりました。でも、どうすることもできないもどかしさがあります。(日常生活で気をつけていることはありますが)やはり、考えたくはありませんか、(大丈夫だといいきかせている)将来的にいろいろ不安はあります。
- ・甲状腺の超音波の2巡目が始まりました。しかし、2巡目になり、癌の凝いや癌と診断された方が1巡目より多いことをニュースで知って

から不安が大きくなりました。ニュースで専門家は、簡単に「1巡目で見のがしていた可能性もある」と言っているのを聞き、大変、不信感です!!医療者専門であるなら、言葉に出してはいけなと思います!100%は人間ですのでムリです。しかし、自分の子供だったらどうしますか?もっと時間をかけて見るのでしょうか?納得できません。

- ・今の生活に慣れストレスも感じていませんが、ニュース、新聞などで、甲状腺ガンの子ども達が増えている、と聞き、少し不安に思っています。小2の長男にのう胞があるので、ガン化しなければよいな、と思っています。
- ・甲状腺検査の件で、ガンのうたがいありの子供が数人いたとの報道を受け、非常に不安を感じています。子供たちが、今後も健康でいられることを祈るばかりです。

甲状腺検査結果から

- ・甲状腺の検査でA2判定を受けた姉の事を不安じゃない親はいないと思います。まだ大丈夫ですと言われれば、そうですかとしか言えません。子供は日々成長していきます。何の健康被害が無い事をいのるばかりです。
- ・子供の健康に関する事が一番心配です。昨年の甲状腺検査において、8才の娘にのう胞が見つかりました。(4才年上の兄は異常なしでしたが・・・)しかしながら、今度は、要経過観察であらためて医療機関の受診の必要はないとされています。本当にそれで大丈夫なのか?今更ながら、避難すべきであったと自分たちの判断を後悔しています。
- ・息子が3人いますが、兄達2人は甲状腺検査で(A2)判定でした。問題ないと言われても心配で仕方ありません。息子達も結果を見て不安を感じたようです。
- ・甲状腺の検査をすると、すごく不安になります。去年、2巡目の検査があり、1回目の結果と同じ、「A2」でした。3回目も受けてみない

と、何とも分かりませんが、心配です。

- ・娘は、甲状腺検査で A2 判定となり、心配はしています。この先、どうなるかなど不安はあります。

(4) 特徴

子どもの健康に関しては、将来の子ども健康について不安や心配を感じるという意見が圧倒的に多い。ニュースや新聞報道から、将来の甲状腺ガンの発病を心配する意見も多く見られた。

10 考察

(1) 各項目の回答数

下記に示す分類項目別の回答数は読み手の主観によって数えられた数字である。また、項目間で重複して数えているものもある。2013年、2014年と2015年の間の「変化」を捉えるために参考までに回答数を示している。

	2013年	2014年	2015年
1 生活拠点	233	214	250
(1) 避難関係	155	66	78
ア 避難継続中	49	16	26
イ 避難したいが戻ってきた	35	9	7
ウ 避難したいができない	68	37	23
エ 避難しない	3	4	22
(2) 保養関係	37	40	19
ア 保養プログラムの拡充を望む	33	33	6
イ 保養に関する情報を得たい	3	6	4
ウ 保養に満足した	1	1	9

(3) 除染関係	41	108	153
ア除染にある程度満足している	2	9	28
イ実施された除染に不満がある	10	16	60
ウ除染を望む	24	74	32
エ(実施の有無にかかわらず)除染の効果に疑問がある	5	9	33
2 食生活	72	49	45
(1) 食	66	45	44
ア地元産の食材や水道水はできるだけ使わない	44	32	20
イ地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている	10	2	21
ウ学校(保育園)給食に対する不満	12	11	3
(2) 洗濯	6	4	1
3 家計	39	53	45
(1) 収入	10	4	5
(2) 支出	29	49	38
ア避難・二重生活の費用	1	2	2
イ放射能対策費用	4	1	1
ウ外遊びの代わり	6	4	13
エ他県産の食材・水の購入費用	12	30	13
オ租税・公共料金	3	8	6
カ保険	3	1	0
キ住宅費用	0	2	3
4 子育て	275	128	137
(1) 遊び	171	97	88
ア外遊びをさせている	29	15	28
イ外遊びを制限している	74	39	51
ウ室内遊び場	68	43	9
(2) 放射能対応	55	23	31
ア子どもの検査	52	18	28
イ積算計(ガラスバッジ)	3	5	3

(3) 出産	11	8	4
ア妊娠	10	6	1
イ流産	1	2	3
(4) その他	30	8	24
5 人間関係	114	59	95
(1) 夫婦・親族	9	9	5
(2) 近所・知人	16	13	19
(3) 外部	79	29	72
(4) 賠償の取り扱いに差異のある人	10	8	54
6 情報	102	38	217
(1) 情報の収集	82	24	199
ア情報不信	62	10	46
イ関心の低下	20	14	153
(2) 情報の発信	20	14	29
7 賠償・補償	121	150	221
(1) 賠償	64	80	72
ア賠償の打ち切りに対する不満、子どもの将来の損害に対する賠償	46	22	22
イ賠償の対象、範囲の線引きに対する不満	18	58	50
(2) 社会保障	11	23	35
ア子どもの健康	7	11	14
イ家計負担	4	12	21
(3) 租税	12	8	5
(4) 対応全般	34	39	82
ア行政の対応に対する不満	19	21	49
イ東電の原発事故対応に対する不満	6	7	24
ウ原発事故を踏まえた原発の是非	8	10	12
エ寄付金の使途に対する疑問	1	1	1
8 健康	79	36	223
(1) 子ども	57	23	188
(2) 親	22	13	35

(2) 声の変化：2013年・2014年調査から2015年調査への全体的な変化

まず、生活拠点に関しては、2013年・2014年調査と比較して、2015年調査では総じて、避難行動が時間の経過とともに、選択しにくくなっていることが示唆されている。また、原発事故から4年が経過し、次第に減りつつある保養プログラムの継続と安い費用で参加できるプログラムの拡充を望む意見があった。除染に関しては、ある程度満足しているという意見がある一方、全体的に除染や除染の効果に対して不満や疑問が目立っている。

次に、食に関しては、2013年・2014年調査より意見数が減って、地元産を使うようになったという声が増えた。家計の経済状況に関しては、2015年調査では、支出について、福島での外遊び制限の代償として発生する費用、すなわち、保養や体験などの費用が増加し、他県産の食材や水の購入費費用が減少した点に特徴が見られた。

子どもの外遊びについては、「外遊びをさせている」も「外遊びを制限している」も増加し、室内遊び場に関する意見が大幅に減少している。子どものもの放射能対応として甲状腺検査の継続を希望する声が増えているが、検査結果についての説明に不満である、また検査結果の基準がはっきりしないため解釈に悩むなどの声が聞かれた。

人間関係に関しては2013年・2014年調査と比較して、2015年は、身近な「夫婦・親族との認識のずれ」が減少した一方、福島出身者に対する差別・偏見を不安視する声が増えている。特に、学校でのいじめや結婚・就職への偏見を不安に思う声が多い。と同時に、福島県中通り在住者による、強制避難区域からの避難者との間に賠償・補償格差に対する不公平感が大きく増加した。

情報に関しては、2013年・2014年調査と比べて、2015年は日常生活が元に戻ったという意見、事故の記憶が薄れ、関心が低下したという意見が多数指摘されている。また、事故から4年が経過し、「あきらめている」や「慣れた」という声も聞かれる。そのような中で、自身や周囲の原発事故

の風化に対して不安や心配を覚える者も多い。

東電の賠償の打ち切りに対する不満や子どもの将来の健康被害に対する賠償が適切になされるかという不安がある一方、補償の不公平感、行政や東京電力の対応についての不満がみられた。

最後に、健康に関しては、将来の子ども健康について不安や心配を感じるという意見が圧倒的に多く、ニュースや新聞報道から、将来の甲状腺ガンの発病を心配する意見も多く見られた。

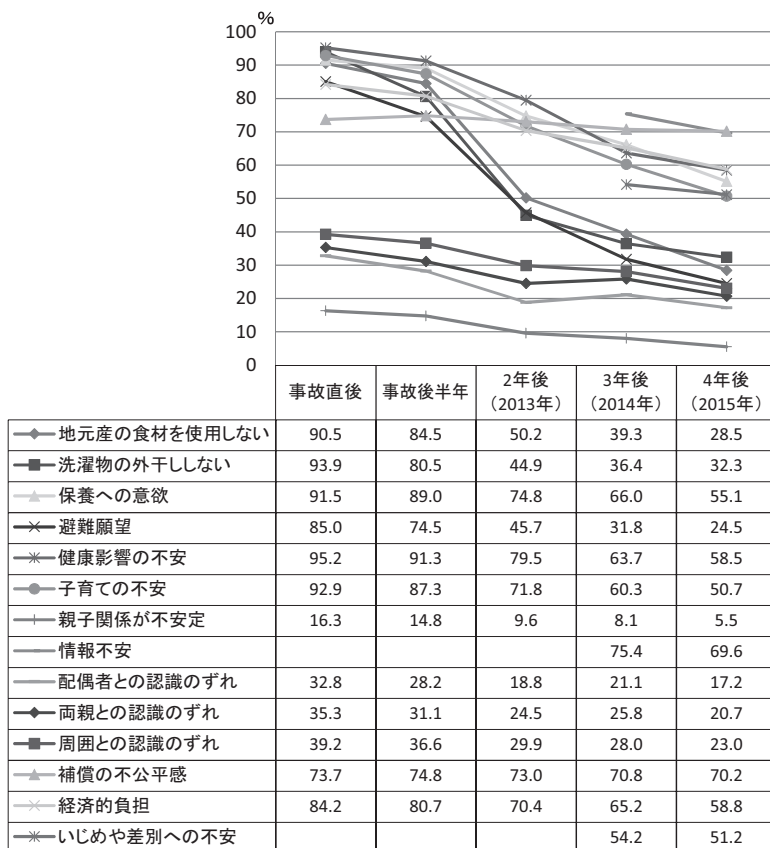
(3) アンケートからみる原発事故後の生活変化

以上は自由記述に関する分析である。以下で、本調査の原発事故後の生活変化に関する問への回答を紹介したい。2013年及び2014年調査と比べて、2015年の回答（下記のグラフ参照）によれば、原発事故後の生活変化には3つの傾向があることがわかった。

第一に、半数以上の者が「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」と回答している項目である。「補償をめぐる不公平感」、「放射能の情報に関する不安」、「経済的負担感」、「健康影響への不安」、「保養への意欲」、「いじめや差別への不安」、「子育てへの不安」である。

第二に、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」が急激に減ってきた項目である。「地元産の食材を使用しない」、「洗濯物の外干しをしない」、「避難願望」である。

第三に、少ないながら、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」が一定の割合でみられる項目である。「放射能への対処をめぐる配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」である。

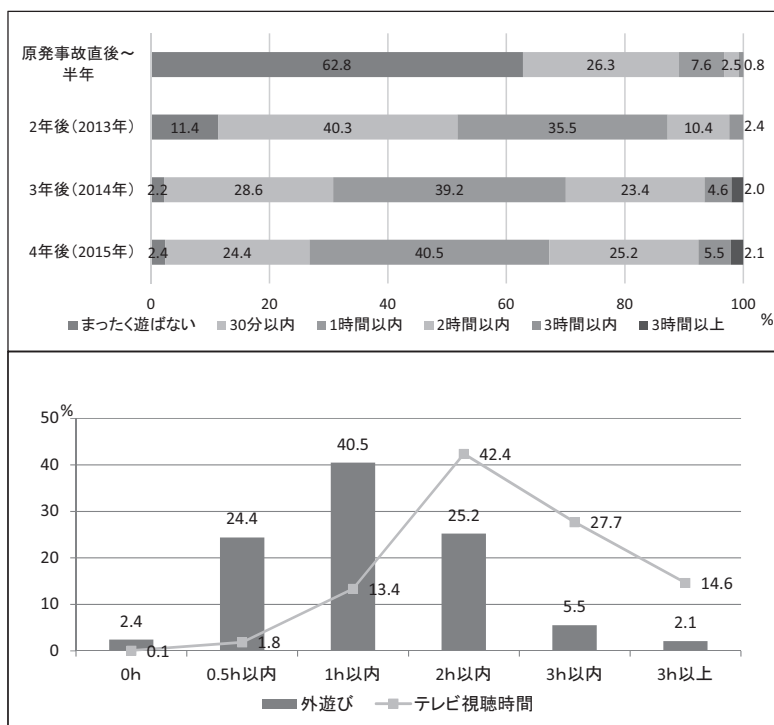


*事故後の生活変化：「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合(%)

次に、子どもの外遊び時間の変化に関する数字データを紹介したい。外で「まったく遊ばない」という子どもが事故直後から半年では62.8%であったのに対し、2年後である2013年は11.4%、3年後である2014年からは約2%と大きく減少しており、全体的に外遊びの時間は増えてきた(下図)。ただ、4年後である2015年においても「30分以内」が3割弱で現在も外遊びに慎重である。

一方、テレビ・ビデオ・DVD等を視聴する時間としてもっとも多いの

は「2時間以内」が42.4%である。2013年に大阪府内の保育園・幼稚園に通う3~5歳児6万人に調査した結果によると、2時間を超えて視聴する割合は5歳児の男子で30.2%、女子では27.8%である（大阪府 HP <http://www.pref.osaka.lg.jp/kosodateshien/kids/chosa-kekka.html>）。本調査では、その割合は42.3%である。ここから、テレビ等の視聴時間は他県に比べて長いことが示唆された。



最後に、自由回答欄に記入した人の「子どもからみた続柄」、「回答者が母親の場合」の年齢層と居住地の内訳を示した。なお、「調査回答者」とはアンケート調査に回答した人を指す。

〔続柄〕

続柄	第1回調査(2013年)			第2回調査(2014年)			第3回調査(2015年)		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
母	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1137	62.01
父	11	33	33.33	22	71	30.99	36	65	55.38
祖父	0	1	0.00				1	1	100.00
里親	1	1	100.00	1	1	100.00	0	0	0.00
祖母	1	7	14.29	3	6	50.00	4	5	80.00
曾祖母	0	1	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
全体	1203	2628	45.78	718	1606	44.71	746	1208	61.75

〔回答者が母親：年齢層別内訳〕

年齢層	第1回調査(2013年): 2585人			第2回調査(2014年): 1528人			第3回調査(2015年): 1137人		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
20代	161	462	34.85	55	158	34.81	29	77	37.66
30-34歳	411	919	44.72	207	505	40.99	189	311	60.77
35-39歳	432	852	50.70	260	543	47.88	281	419	67.06
40代	178	340	52.35	165	311	53.05	204	324	62.96
50代以上	1	1	100.00	0	1	0.00	1	2	50.00
無記入	7	11	63.64	5	10	50.00	1	4	25.00
全体	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1137	62.01

市町村名	第1回調査(2013年): 2585人			第2回調査(2014年): 1528人			第3回調査(2015年): 1137人		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
福島市	426	873	48.80	241	504	47.82	216	358	60.34
桑折町	22	34	64.71	13	21	61.90	10	18	55.56
国見町	15	27	55.56	8	12	66.67	4	10	40.00
伊達市	67	173	38.73	46	109	42.20	40	81	49.38
郡山市	462	1059	43.63	255	601	42.43	284	453	62.69
二本松市	79	169	46.75	48	105	45.71	46	69	66.67
大玉村	15	41	36.59	10	26	38.46	11	20	55.00
本宮市	55	123	44.72	30	76	39.47	41	54	75.93
三春町	12	34	35.29	6	15	40.00	4	10	40.00
9市町村外	37	52	71.15	35	59	59.32	49	64	76.56
計	660	2585	25.53	692	1528	45.29	705	1137	62.01

第1回調査自由回答記入あり件数: 1203件(総回答数2,628件) ¹⁾ = 45.78%	第2回調査自由回答記入あり件数: 718件 ¹⁾ (総回答数1,606件)= 44.71%	第3回調査自由回答記入あり件数: 746件(総回答数1,208件)= 61.75%
合計文字数:252,047文字	合計文字数:153,938文字	合計文字数:151,677文字
一人当たり平均文字数:209.5字	一人当たり平均文字数:214.4字	一人当たり平均文字数:203.3字

-
- 1 本稿は、科学研究費助成事業(15H01971、25460826、25380710)の成果である。なお、草稿の段階で、福島子ども健康プロジェクト事務局の岡田英恵さんに多大なご協力をいただいた。記して感謝したい。
 - 2 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2014, 「1,200 Fukushima Mothers Speak : アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』8(1) : 91-194を参照。
 - 3 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2014, 「700 Fukushima Mothers Speak : 2014年アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』8(2) : 1-74を参照。